

PORT SAPIE

ぽるとさぴえ

函館大学広報誌Vol.5●発行／函館大学広報誌編集事務局

1997.JUL
Vol.5



啄木小公園 (大森浜)

特集

◆理事長VS.学長対談

「野又学園のめざす教育」

ロンドン・ローマ研修座談会

「私たちが見た、感じたヨーロッパ」

The入試

チャネル別合格インタビュー

「アラカルト方式」「特別奨学生」「推薦入学試験」

函館大学



函館大学校歌

親潮速き

作詩 上田秀雄
作曲 館野信平

一、親潮速き海峡を とどろと寄する荒波も
乗り越え行かんひたすらに 北極星を仰ぎつつ
真理の海に棹させば 黙示ひらけて人の世の
まことの平和あらわれん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

二、徳並みも霞む大平原 鷗群れ飛ぶ北の海
尽きせぬ富を拓きつつ 担う文化の豊けさよ
恵み傾ちてもろ人と 手に手をとらば人の世の
樂園ここに開けなん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

三、狭霧晴れゆく蝦夷松の 林のかなた郭公鳴く
思案の朝を踏みゆけば 心開くる思いあり
友とし学ぶ幸ありて 誠に結ぶ学園の
道をひとすじに進まん お、これぞこれ友垣を
一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

平成9年7月から平成10年1月までの主な日程

7月11日	夏季休業開始
7月18日～24日	協学会地区懇談会 函館(18日)、室蘭・青森(21日)、 旭川・仙台(22日)、札幌・東京(23日)、 帯広・大阪(24日)
8月31日	夏季休業終了
9月1日	前期授業再開
9月11日	前期授業終了
9月12日～29日	前期末試験開始
9月19日	学園創立記念日のための休業日
9月30日	前期末試験採点のための休業日
10月1日	後期授業開始
10月17日～20日	大学祭
12月11日	冬季休業開始
12月11日～20日	函館大学第16回海外旅行
平成10年	
1月16日	冬季休業終了
1月17日	後期授業再開

函館大学
広報誌編集事務局

〒042 函館市高丘町51番1号
TEL(0138)57-1181 FAX(0138)59-4575

PORT SAPIE

C O N T E N T S

◆特集 座談会「野又学園のめざす教育」	2
深まる国際交流	5
函大生の異文化体験	
◆ロンドン・ローマ研修座談会	6
入試概況	8
◆チャンネル別合格談インタビュー	9
北から。南から。出身校紹介	10
教員インタビュー「研究室から」	11
著書紹介	12
エッセイ〈漂泊望郷〉	13
資格に挑戦!	
教職員プロフィール	14
平成9年度就職戦線の展望	16
企業訪問報告	17
「私」の就職活動	
聴講生紹介	18
ビジネスマナーABC	
ゼミナール紹介	19
[委員会だより]	20
函館企業訪問 湯川「わか松」	21
私の函館散歩	
教養講座・健康講座	22
公開講座便り	23
ズーム イン キャンパス	
函館食べ歩き	
学友会活動報告	24
函大ing	
クラブ紹介	25
読書テーブル	26
野又学園プロフィール	27
函館大学附属柏稜高等学校	
同窓会から	28
協学会だより	
投稿コーナー百葉箱	29

PORT SAPIE 函館大学広報誌Vol.5

ぽるとさぴえ

「ぽるとさぴえ」は、ラテン語のポルトス(港や門を意味します)とサピエンティス(知恵や英知を意味します)を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。

●表紙写真説明 啄木小公園(大森浜)
大森浜は啄木が好んで散歩した場所のひとつ。
この座像は、北海道出身の本郷新の制作によるもので、昭和33年10月に建成されたものである。
台座には「潮かおる 北の浜辺の 砂山のかの浜薔薇よ 今年も咲けるや」と活字体で浮彫りされている。

特集!

◆理事長VS.学長

学校法人野又学園 ◆理事長 野又 肇
 函館大学 ◆学長 河村 博旨

野又学園のめざす教育

高度情報化、国際化、超高齢化。大きな変化の時代にあつて、教育はこれからどうあるべきなのか。
 戦後五十年の教育の反省も踏まえながら、野又学園の今後の方向について、理事長と学長が語り合いました。



理事長 野又 肇

理想は幼稚園から大学までの一貫教育

学長 本日は野又学園全体の将来ビジョンを語って頂くということで。その前に本学園の歩みと現状について理事長から説明していただきたいのですが。

理事長 そうですね。本学園は昭和十三年創設の函館計理学校、今の函館大学付属有斗高校の前身ですが、同校を母体に、次々と学校を新設し、来年で六十周年を迎えます。本学園が創立以来一貫してめざしているのは、知・情・意のバランスのとれた人間教育と実務教育の実現です。そのためには、高校からの一貫教育が望ましいとの考えから、大学、短大、専門学校を設置してきました。現在は大学一、短大一、専門学校三、高校二、幼稚園一を擁する総合学園に成長しています。校名を上げると、函館大学、函館短期大学、函館医療保育専門学校、函館ビジネスアカデミー専門学校、函館短期大学付属大学付設調理師専門学校、函館大学付属有斗高校、同柏稜高校、函館短期大学付属幼稚園の八校です。柏稜高校の前身は函館大学付属女子高校で平成九年度男女共



ヤレンジ精神旺盛な人材はむしろ、一見不真面目でありながら茶目っ気もあり、遊びも上手でガリ勉嫌いな子供たちの中から輩出されているように思います。
 理事長 子供に夢を与えられない社会の現状を、我々大人は大いに反省しなければならぬのですが。有名企業に入ることがすべての人にとって幸せかというと決してそうではないはずです。幸福にひとつの定まった形があるかのように思い込んで、人をうらやんだり、見下したりするのは不幸なこと。それぞれの人が、自分の持っている特性や能力を活かして社会に貢献していく。生きる喜びはその過程にあると思うんです。自分の人生を自分で手づくりする。生きる力の養成が教育の役割だと思えます。今はそれが十分に果されているとは言えません。

ないんです。問題が与えられたら、自動販売機にコインを入れてジュースを買うように、答えをどこから引っ張ってくればよいと思っている。ロボットの思考の人間が少なくない。インターネットを使ったりする情報処理能力には長けているが、問題を自ら発見して、自分の頭で解決していくという意欲と能力が不足している。だから、前例のないことやマニュアルのないことに対処しようとしないうちに、また、できないんです。しかし、実社会では、予想外の出来事の連続。対応策をその都度、自分で発見していかなければならない。自動販売機の思考能力では通用しないわけです。また、夢やロマンのある、愛や情熱を備えた、人望、人徳のある人材でないと、協力者も得られないでしょうしね。
 理事長 そうですね。さらにこれからの時代、ビジネスにおいて、創造性がより強く求められていくでしょう。そうした能力を



学長 河村 博旨

学となつたのを機に校名変更しました。有斗は男子校の、柏稜は男女共学校の、各々の良さを生かした教育を進めていく方針です。
 学長 一貫教育の次のステップとして、中学校および大学院の創設が考えられます。大学院についてはすでに構想段階に入っていますが、中学校についてはどうお考えですか。
 理事長 幼稚園から大学までの一貫教育が野又学園の理想ですが、今のような義務教育制度のもとで中学校創設を計画するのは時期尚早でしょう。小・中学校を教育内容で選択できるしくみが整ってきた段階で、幼稚園からの一貫教育も現実味を帯びてくると思っています。

二十一世紀を生き抜く力を養成するには

理事長 学園の教育について議論する前に、今の日本の教育にはどんな問題点があつて、どう取り組んでいくべきなのかを抑えておく必要がありますね。
 学長 それについて話し出すと時間がいくらあっても足りないのですが。手短かに

いかに養うかも大きな課題ですね。
 学長 創造のためには想像力が必要というのが私の持論です。古今東西の独創的な科学者、哲学者、創造的な実業家が皆そうであるように、創造的な人というのはだいたいにおいて、愛と自己犠牲の精神にあふれたロマンチストです。「こういうものをつくりたい、こういうことをやりたい、こういうことをしてあげたら喜んでもらえるだろう」と、イメージを膨らませることができるところこそ、それを力にしたり、実行したりできるんです。想像力を鍛えるためには、良質な文学作品に親しんで疑似体験を積んだり、頭の中で空想の羽を思い切り伸ばしたり、脳内シミュレーションを何千万と多種多様に自由自在に展開できるようにするための訓練（一種のイメージトレーニング）が必要です。ところが、先ほど理事長も指摘されたように、今は物事にじっくり取り組む時間的余裕も、他人に対して怒（思いやり）の気持ちをもつゆとりも持てないままに、受験、受験で追い立てられてしまっている。
 理事長 一点でも多くとって人を押し返けることにエネルギーを注がざるをえないから、思いやりやリーダーシップが育たない。社会で円滑な人間関係をきずくためには、ぜひとも必要な能力なんです。

庭の教育力も低下しているようです。
 学長 もうひとつ、非常に気になっているのは、若者が自己の能力開発に対して、非常に消極的だということです。放棄しているのではないかと思うほどです。かといって、遊びほうけて心底楽しんでるかというところでもなさそうです。自分の生き方の根がしっかりしていないから、やはり不安なんです。それを紛らわすために車やブランド品などの物質欲の追求に走っている。「いかに生きるか、いかに社会に貢献していくか」を考えさせる教育「他人の役に立ち、喜ばれることこそ楽しく、愛と奉仕、これこそ快感や幸福感を得られる近道」という大事なことをきちんと教える教育が必要だと思つてます。



理事長 そのとおりですね。人生が長寿化してきてますから、二十二歳で大学を卒業して八十歳まで生きるとしたら、六十年もあるわけでしょう。若者がどう生きるかを考えるのは非常に大切な事です。若者が

深まる国際交流



オーストラリアにある、本学の新しい姉妹校「ニュー・カッスル大学」
ロジャ・S.ホームズ学長より、姉妹校契約締結に対してメッセージが寄せられました。

The university of Newcastle and Hakodate University have established a fruitful program of visits and exchanges to the mutual benefit of both institutions. The co-operation and friendship between the University has facilitated close ties, educationally, culturally and in sporting pursuits.

In 1996, a Memorandum of Understanding was signed for the purpose of staff and student exchange and as a symbol of the growing friendship and interaction between our universities.

The University of Newcastle welcomes students and staff exchanges for the enriching experiences they can provide to the visitors and the host institution. In an increasingly global educational environment, it is important that we expand our horizons and our experiences. Exchange programs are an excellent means to archive these aims. The University welcomes the diversity which visiting students and staff bring to

the University community.

I look forward to a mutually rewarding and enduring relationship with Hakodate University.

Roger S. Holms, VICE-CHANCELLOR,
19 May, 1997

ニュー・カッスル大学と函館大学は、これまで来るべき交流をめざして相互訪問や意見交換を進めて参りました。そして両大学間には、教育や文化、またスポーツ面での協力と交友の関係を築くことができましたのであります。

1996年、我々は教員と学生の交換についての姉妹校提携契約を締結いたしました。これこそ両大学にとって、更なる友情と交流へのスタートとなるものでありましょう。

我がニュー・カッスル大学は、函館大学よりお越しいただく学生や教員の方々を歓迎し、お互いに有意義な学習と研究の機会を持つことができるものと確信しております。

国際的な学習機会が増大する中で、我々

が常に広い視野を持ち、国際的な経験を積もうとすることは大切であります。その意味でも、両校の交流プログラムは素晴らしい機会であります。互いの学生や教員が相互に行き交うことにより、それぞれの大学に新しい多様性が生まれることでしょう。

今後とも函館大学との間で相互理解と永い交友関係が構築できることを期待しております。

ロジャ・S.ホームズ学長



った改革が必要かもしれない。今の単位制度は見直す余地があると思います。現行では週に一度の講義を一年間受講すれば四単位というシステムになっています。しかし、週に一度では、前の週に勉強したことを忘れたことを次の講義がやってくるというペースです。学生の興味も半減してしまうのではないのでしょうか。週二回の講義で半年、あるいは週四回の講義で四年という集中的な組み合わせで考えていくということがあります。



学長 さて相当一般論を言ってきたようですが(笑)、こういうことを踏まえた上で、野又学園はどういう教育を展開していくべきなのか。これは難問ですね。

理事 長 ひとりある教育という点については、受験に追われる一貫教育の良さをさらに生かしていきたい。与えるだけの教育の改善という点については、今の一方通行的な講義形式を見直したいと考えています。現代は情報化社会。本もビデオも衛星放送もインターネットもある。知識を伝達するだけでしたら、手段は豊富にあるんです。せっかく人間が教育するのですから、機械には任せられないことをするべきではないか。今の学生諸君は協同作業をするとか、集団の中で自分の役割を果たすとかいう機会が少ない少年時代を送ってきた。その点、わが函大では、中学や高校の課外活動などを通して鍛えられた学生が多く入学している点は特筆できます。さらに大学の課外活動で仲間や学外のひととつながる心理状態を、相手の心理状態を瞬時に読み取り、瞬時に反応する能力を自己開発し、洗練してもらいたい。課外活動はもっと重視されていいと思います。

中国研修の旅 幼少の頃の憧れと現代中国への期待を胸に三力月の中国留学に飛び立ったのは、三年生の秋でした。目的は、現在報道されている中国と実際の中国を自分の目で見て比べて、中国人と同じような生活をする中で中国を肌で感じてみたかったこと。そして、卒業後に自分が何をしたいのかを考えてみたかったからです。

日本でのテレビや本などから得られる情報だけで行った私にとって、北京はカルチャーショックの連続でした。街は常にスモークが一面に広がり、排気ガスなどの汚染が灰色の雨が降り注ぎます。貧富の差は激しく、高級車の横を口バヤ人力車が走り、高層ビルの横には掘立て小屋があり、次々と家を壊されていく人々もいました。高層ビルの下には、飢えをしのぐために小さな子どもたちや足や腕のない人たちが物乞いをし、郊外に行くと戸籍もない子どもたちが学校に行けずにいるのが現状なのです。しかし、彼らは矛盾だらけの中でも毎日を生懸命に生きています。少しでも豊かになるためには多少のリスクは気にせず、自分を守るためには喧嘩もよくします。日本人のように穏便に事を済ませたりはしません。自分に常に正直に生きています。資本主義社会に向かっている彼らには勢いがあります。

私は、すでに豊かになっている日本では味わえない「生きる力」を強く感じました。またいつか、この国へ行きたいと思っています。



〈函大生の異文化体験〉

交換留学体験中(ハワイパシフィック大学) 大阪府・桜塚高校出身 三年 山本 慶

中国研修の旅 九六年度卒業 函館聖愛女子高校出身 伊勢美穂



ないでしようか。入手した知識を活用し、創造していく能力の育成が、これからの教育に求められていると思います。そのためには、質疑応答やディスカッションの時間をもっと増やしていかなければならない。対話を重ねる中で思考が鍛えられ、知識も増え、人間関係も育まれると思います。

学長 そうですね。それに加えて課外活動をどう活用するかというの大きなポイントです。先ほど、想像力の不足が人間関係をつくる能力の欠如につながっていると言いました。いい人間関係を築くためには、集団内における自分の位置や役割を認識できるジャイロ・スコープが必要なんです。周囲の人に快感を与えられる、少なくとも不快感を与えない行為行動が、役者俳優が演技をするように無意識に自然に、たぶん一〇〇分の一秒とか五〇分の一秒という速度で連続的にできる能力が必要です。そうした能力は、集団の中で相手のことを考えながら行動する訓練を積まないと身につかないんです。その点、今の学生諸君は協同作業をするとか、集団の中で自分の役割を果たすとかいう機会が少ない少年時代を送ってきた。その点、わが函大では、中学や高校の課外活動などを通して鍛えられた学生が多く入学している点は特筆できます。さらに大学の課外活動で仲間や学外のひととつながる心理状態を、相手の心理状態を瞬時に読み取り、瞬時に反応する能力を自己開発し、洗練してもらいたい。課外活動はもっと重視されていいと思います。

理事 長 大学については講義の編成に思いき

味も半減してしまうのではないのでしょうか。週二回の講義で半年、あるいは週四回の講義で四年という集中的な組み合わせで考えていくということがあります。

学長 それとやはり、より質の高い高等教育を提供していくことではないでしょうか。先ほど理事長が自ら学び、生きていく力の養成という問題提起をされました。高等教育の場である大学においては、国際的、歴史的、長期的という広い視野に立って、「普遍的な幸せとは何か」を冷静に考えさせる教育が大切だと思っています。そういう経験をさせることが、国際的にも通用する確固とした価値観、知性、豊かな人間性の構築につながると思うのです。

理事 長 同感ですね。

学長 こうした哲学的な教育を行うには、教える側にも豊かな人間性が求められます。大変なことではあります。東洋の哲学、思想、歴史、宗教史、文学など幅広い分野にかなる基礎的な教養は不可欠。学生諸君に対する愛情はもちろんのこと、謙虚さも必要です。「彼らは二十一世紀を担

う世代なんだ」という尊敬の念を抱いて接することが大切です。高いところからモノを申すという姿勢では彼らの心には響きません。例えば、自分の成功談を学生に話しても、さしたる効果は期待できません。「自慢話はやめてくれ」と思われるのが関の山。私は講義の時に、自分の失敗を後悔の念を込めて話します。「若い頃に自己の能力開発を怠った、だから今は後悔の日々であり、君達にはその轍(てづ)を踏んでほしくない」と、セツセツと語ります。そうしたら、それまでザワついていた講義が一転、水を打ったようにシーンと静まり返ります(笑)。確かに自己能力の開発を放棄してしまっている学生が多いですけれども、そんな彼らも、先が見えない社会でどう生きていってほしいのか、その手がかりが欲しいとは思っているんです。ただ、自分で考える能力が不足している。どうしていいのかわからないんです。そういう彼らをいかに導くか。教える側にも、意識変革が必要になってきているように思います。



「ロンドン・ローマ 私たちが見た、感じたヨーロッパ」

第十五回目当たる九十六年度の海外研修は、歴史と伝統の都、ロンドンそしてローマを訪ねました。九十六年、十二月十一日、石井教授を団長とした一団(引率者三名・学生三十三名、添乗員)は函館空港を出発。十日間のヨーロッパ旅行を満喫しました。旅の印象や思い出について語り合ってもらいました。

世界有数の名門大学、
オックスフォード大学を見学

石井 今思い出しても、感動したり学んだ
りすることの多い、有意義な旅行でした。



最初に訪ねたロンドンから振り返ってみようか。市内観光、オックスフォード大学見学、ミュージカル観賞と、盛り沢山なメニューでした。阿部 私は街並みの美しさが印象に残っています。ウエストミンスター寺院やバッキンガム宮殿などの有名な建物だけでなく、普通の建物もとてもきれいなことに感動しました。



帯広緑陽高校出身・3年 福田力さん

ケバケバしい色の広告や自動販売機とかが無かったように思います。景観への配慮でしょうね。野上 古いものの良さが、街全体を落着いた雰囲気にしてるように感じました。福田 ちょうどクリスマスシーズンだったから、イルミネーションがきれいでした。街灯の色がオレンジに統一されているところに、ロンドンの人たちのセンスの良さが表れていたと思います。

新関 皆さん、英語は通じましたか？ 皆さん、英語は通じましたか？ 対してくれましたから。さすが紳士淑女の国だなあと。野上 博物館にはいろんな国のことばの解説テープが用意されていて、細かな気配りだなと思いました。私は自由行動の時間に、列車に二時間ほど乗って、パースまで足を伸ばしたんです。「パース」の語源になった大きなお風呂の遺跡があるところなんです。そこにも日本語のテープがあったので助かりました。



平塚学園出身・3年 船山孝浩さん



団長・教授 石井晋良

船山 街はきれいだし、人はやさしいし、いいところなんだけど、どうしてあんなに食べ物が多いのかな！ 一同 同感！ 船山 ステキなんて噛み切れなかったですよ。食べ物だけ何でこうなの？ って不思議で仕方ないですね。



副団長・専任講師 プライアン・ダッフ

新関 いろいろなカレッジが集まって、オックスフォード大学という「大学村」を形成しているのですが、あの広さには驚きました。自然も豊かで、恵まれた教育環境だなと思いました。福田 モードリアンカレッジの学長さん自ら学内を案内して下さって感激しました。図書館で古い書物を見せたいだきましたが、変色した書面から、大学の歴史が感じられました。石井 オックスフォード大学の創立は十二世紀ごろだから、歴史といったら大変なのだよ。阿部 図書館の書棚の多さ、また、それを埋めつくしている本の量にも圧倒されました。いろいろな面でスケールが大きかったですよ。



引率者・就職課長 新関喜美男

新関 シャープのヨーロッパ研究所は主に商品開発を目的としているということでしたが、ここではどんなことが印象に残りましたか。

野上 日本の企業の会議という、かしこまった室内で、みんな真面目な顔で話し込むというのが一般的かなと思うんですが、このミーティングはそれとは違って、とても自由な雰囲気でした。室内も広々としていて、リラックスできる雰囲気。いいアイデアの生まれそうな環境だなと思いました。

サッカーの応援に見た国民性の違い

石井 ローマに話題を移しましょうか。船山 ピザも、パスタも、食べ物みんな美味しかったなあ。ロンドンの欲求不満も一挙に解消しましたよ(笑)。福田 会話は英語で大丈夫だったけど、「身ぶり手振り」がいちばんよくわかってもらえたみたいだった。

船山 プロサッカーの観戦では、ゲームそのものより、応援席の熱狂ぶりに度肝を抜かれました。声援がもうゴオオッって感じで。僕ら前のほうの席だったんですが、後部席から迫ってくる熱気に押しつぶされそうだったもの。福田 ファンどうしのイザコザが起きると、警官がピストルで空砲をならして、場を治



函館西高校出身・3年 阿部かおりさん

日本の豊かさを実感 阿部 私がいちばん驚いたのは、ジブシーの子供たちの「ひったくり」でした。

福田 日本ではどんな競技の応援でもあそこまで熱狂しないですね。石井 やっぱ国民性の違いなんだろうね。

めていたのにもビックリ。船山 相手チームが反則気味のプレーをしようにもなら、怒りまくって、水の入ったペットボトルとか発煙筒とか投げたりするから、怖いものなんのって。応援合戦というより、もうケンカに近いですね。新関 観戦前にガイドさんが、「敵側チームの色の服を着て行くと、あぶないですよ」ってアドバイスしてくれました。着替えなきゃならなかった学生もいましたが、言われた通りにして本当に良かったと、引率者として胸をなでおろしましたよ。

ブライアン 学生諸君にしつこいぐらい「気をつけろ」といっていた、その僕が愛用のカメラを盗まれてしまつて……トホホ。野上 ガイドさんが「あの子供たち、今から盗みをやりますよ。見てごらんないさい」って言うんですよ。回りの人は誰も止めないし、盗まれそうになっている人に注意もしないんですよ。新関 彼らの行為は社会的に容認されてい



岩見沢緑陽高校出身・2年 野上陽子さん

石井 イタリアでは豊かな北部と貧しい南部という南北の経済格差が、社会的な問題として昔からあるんです。ミラノやジェノヴァのある北部に商工業が集中してしまっている。ローマやナポリのある南部は乾燥気候だから農業もダメで、観光業ぐらいしか産業がない。働く所さえないという人がたくさんいる。南北格差は近年ますます広がっているらしいですね。

阿部 貧富の差が激しいんだなって行ってみてはじめてわかりました。こういうことって観光ガイドには書いてないから。新関 豊かな人達はますます豊かに、貧しい人たちは子孫孫まで貧しいっていう構図ですね。日本みたいに努力次第で豊かになれるという社会じゃないんですね。石井 その点、一億総中流といわれる日本は恵まれていますよ。学生一同 本心にそう思います。福田 ジェトロのローマ支店長、根井さんにお話を伺った時、「アルマーニなんてブランドはイタリアの上流階級でもなかなか買わない。有名ブランドが居並ぶ高級店街を、洋服箱抱えて歩いているのは、日本人の観光客ばかりだ」って、おっしゃっていました。日本人ってやっぱり金持ちなんですよ。野上 いろいろなことを考えさせられました。

- 出席者
阿部かおりさん (国際英文秘書コース3年・北海道/函館西高校出身)
野上陽子さん (商学会計コース2年・北海道/岩見沢緑陽高校出身)
福田力さん (経営情報コース3年・北海道/帯広緑陽高校出身)
船山孝浩さん (商学会計コース3年・神奈川県/平塚学園高校出身)
●団長・司会/教授 石井晋良
●副団長/専任講師 プライアン・ダッフ
●引率者/就職課長 新関喜美男

たよね。今回、研修旅行に参加したことで、世界的にもものを見る眼を養うことができたのではと思っています。またどこかに行きたい気持ちもムクムク湧いてきました。おカネを貯めなきゃ！ 新関 野上さんは時間を上手に使って、フレンチとかいろいろと見て回ったようですね。ブライアン 事前にいろいろプランを立てておくと、時間ができた時にサッと動けますよ。充実した旅行にするためには、事前勉強が大事だと思います。福田 僕は英語の勉強をもっと積んでから、またロンドンに行きたいですね。もっと話せたら、もっと楽しかったらと思うから。船山 そうだね。ミュージカルのセリフもダイレクトに興味があったら、もっと感動できたと思う。石井 今回の旅行はメニューが豊富でそのぶん楽しかったですが、スケジューリング的にはちょっときつかったかもかもしれません。でも、皆さん元気に楽しんでくれたようで、とても良かったと思います。今回の経験を生かして、それぞれまた良い旅をして下さい。

チャネル別合格談インタビュー

この春入学した3人に、本学の入試システムについて、それぞれの体験にもとづきお話をしてもらいました。

●一年 白石浩範（岡山県・岡山県立高等学校出身）
国語と英語を選ぶつもりだったんですが、試験当日、問題を見たところ、英語よりも数学の方が得点できそうに思えたので、国語と数学に変更しました。
まずは国語からと張り切って取り組んだのですが、緊張のためか手こずってしまい、二科目通して一〇〇分という持ち時間のうち、七〇分を使い果たしてしまいました。さすがにあわてましたが、幸いなことに数学の問題のほとんどがマスターしていたタイプのものでしたので、残り三〇分という短い時間で、全問題、解答し終えることができました。もし、英語のまま受験していたら、時間切れで、悔いが残ったかもしれません。僕の場合、本番での科目変更が可能なアラカルト方式だったことが、実力を出し切れた一因と言えます。受験生にとってはメリットのある方式だと思いますね。

「アラカルト方式」の利点を生かし
実力を出し切りました。



●一年 浦山 一深（福島県・郡山商業高校出身）
僕は高校から簿記専門学校に進み、卒業後、函館大学に入学しました。大学進学を希望したのは、第一に公認会計士を志望しているので勉強する時間が欲しかったから。第二に関係する分野以外の学問にもふれ、視野を広げたいと思ったからです。
函館大学は商学の大学であり、さらに入学試験の成績上位者に対して入学金や授業料が免除になる制度があると聞き、受験を決めました。検定や資格も評価の対象となるということで、その点も日商簿記検定一級と販売士資格を取得していた僕には有利だったと思います。「絶対、特別奨学生になるぞ」と友達に公言し、自分を奮い立たせながら、受験勉強に励みました。努力の甲斐あって願いがかない、とてもうれしく思っています。精一杯学び、貴重な四年間を大切に過ごすつもりです。

「特別奨学生」をねらって
受験しました。

●一年 濱田朝子（北海道・七飯高校出身）
高校時代はボランティア活動に積極的に取り組みました。函館の隣町、上磯町にある知的障害者のための施設「おしまこころ」で運動会や寮祭のお手伝いをしたり、道教委主催のボランティア育成講座に参加したり。人の力になることの難しさと喜びを肌で感じる事ができました。このほか、高校二年から三年の秋まで生徒会の副会長を務め、また、剣道部に三年間在籍し、全道大会にも出場しました。
勉強以外のこうした活動によって得た、たくさんのお出会いによって、成長できた部分が大いにあると思っていましたので、自己アピール書に書きました。そのことが評価されたのではないかと思います。ボランティア活動はこれからも続けていくつもりですが、ほかにもいろいろあることにチャレンジして、高校生活以上に充実した大学生活にしていきたいと思っています。

「推薦入学試験」に合格しました。



個性や才能を活かせるユニークな入試制度

函館大学では、創意工夫を凝らした入試制度により、様々な個性や能力を備えた学生をバランスよく集めています。
今年度についていえば、全国の私立大学に共通して見られた傾向なのですが、ペーパー試験による受験者数が例年より少なかったことがちょっと残念でした。
現状に満足せず、より魅力ある大学づくりに向けてさらに努力を続けていかなければならないと、関係者一同、気を引き締めています。



入試委員長・助教授 今井敏博

入試概況

函館大学の入学試験

●ユニークなアラカルト方式

本学の入試には次の3つの点で大きな特長があります。一つ目は、第一期・第二期入学試験ともに「アラカルト方式」を採用していることです。これは、「国語」「英語」「数学」「簿記」「日本史」「世界史」「政治・経済」の中で、試験当日、会場で実際に問題を見てから、受験科目を選ぶことができる方式です。高校での授業を大切にしていれば、試験当日に受験科目を変更することもできますから、日頃の実力を十分に活かれます。

●募集種目

剣道・卓球・硬式テニス・硬式野球・バドミントン・少林寺拳法・ハンドボール・ソフトテニス・ボウリング（※種目により、男子のみの募集となります）

●入試会場は全9カ所

従来の函館、札幌、仙台、東京、名古屋、大阪に加えて、1998年度より青森、新潟、金沢でも一般試験が受けられるようになりました。

●課外活動等業績評価対象の拡大

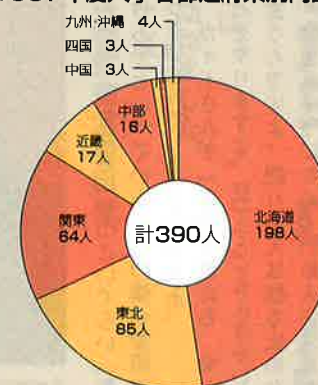
推薦入学、第一期・第二期入学試験ともに、およそ以下のような項目で、課外活動等業績評価ポイントが加算されます。

- ・課外活動（体育・文化）
- ・生徒会活動・奉仕活動
- ・各種大会出場と受賞歴（体育・文化）
- ・簿記検定試験（日商・全商）
- ・英語検定試験（実用・全商）
- ・販売士試験
- ・情報処理技術者（通産省・全商）
- ・TOEFL
- ・秘書検定試験
- ・ワープロ検定試験

●「特別奨学生入学試験」の第一期試験への繰り入れ

従来は独立した入試区分であった特別奨学生入学試験を、1994年度入試から第一期入学試験へ繰り入れしました。第一期入学試験における試験成績上位者を面接し選考。特典として、入学から卒業までの学費（入学金・授業料）を奨学金として給付します。

●1997年度入学者都道府県別内訳



入試事務局スタッフ

教務課長 黒澤幹生
教務係長 岡嶋雅昭
課員 鈴木克尚
課員 荒木弘子
課員 稲村早苗

その他、お問い合わせご相談は、右記まで。

函館大学入試事務局 フリーダイヤル 0120-001172

〒042 函館市高丘町51番1号

TEL 0138-57-1181 FAX 0138-57-0298 (9:00～16:00、土曜日は12:00まで)



【函館北高等学校】

四季を通じて横津岳の美しい山並みを仰ぎ、函館山を眼下に見る日吉町の高台にある函館北高等学校は、昭和三十八年の開校。「立志誠実」の校訓を掲げ、各学年六クラス、生徒が勉学に部活に、青春の日々を燃焼させています。昭和四十九年度より制服を自由化するなど、意欲や礼節を大切にしながらも若い個性をのびのびと育む校風が行き渡っています。

創立三十周年を迎えた平成五年度には、コンピュータ教室、語学教室、視聴覚教室、教育相談室などのある特別教室棟が完成。二十三の部活の部室や、合宿所、トレーニングルームのある「ひよしの会館」も竣工し、学びを支える環境も充分です。

また、平成八年度からは二期制を取っている点も特長と言えるでしょう。九月末に前期が終わり十月から後期が始まります。学期が長いので、じっくりと腰をすえて勉強に取り組むことができます。進路指導もきめ細かく行われ、早朝や放課後、春・夏休みの合宿講習などが全校をあげて繰り広げられています。

【平塚学園高等学校】

Jリーグのベルマーレ平塚のお膝もと。江ノ島にほど近い平塚学園高等学校は、海と緑の湘南に位置する絶好の自然環境にあります。昭和十七年、平塚女子商業学校として創立され、同三十八年、普通科設置とともに現在の校名となりました。科は普通科のみで、その中で、全員が大学進学をめざす「特別進学コース」、幅広い分野での活躍をめざす「普通コース」、コンピュータのスペシャリストを養成する「情報処理コース」の三つのコースが分けられ、それぞれに個性を尊重した情熱的な指導が行われています。クラブ活動も盛んで、年間を通して楽しいイベントなども盛りだくさんです。

また、地元にもおなじみで学校の目印的存在なのが、口径一〇八ミリの屈折式天体望遠鏡のある天文台。その他に女子教育の伝統を伝える五十



【中村学園三陽高等学校】



知・徳・体を兼ね備えた人間性豊かな男子の育成を目指し、昭和六十一年、福岡県福岡市に開校した普通科の男子高校です。学園祖の教育理念「形は心の現れである」に基づき、品位ある態度と行動を身につけ、清潔かつ端正な服装などの躰にいたるまで、細かく徹底した指導が行われています。少数精鋭の男子だけの集まりの中で教師の情熱に触れ、自主性に根ざした優れた人格を陶冶・形成することが目標です。学園の三陽中学校からの中高一貫学級が二クラス、高校入学クラスが五クラスという構成。進学コースを中心に、特進コース（四十名）が加わります。三年間で効率的な学習を行うために特色ある教育過程を組み、少数精鋭主義でそれぞれが大学進学を目指しています。

緑豊かな環境の中でスポーツにも意欲的に取り組み、体育館の他に、県下では類のない四百メートル・トラックのあるグラウンドや柔剣道場、トレーニング設備なども完備し、ラグビーやサッカー、剣道、陸上競技などが盛んです。

【青森県立青森北高等学校】

昭和十六年、旧制男子中学である青森市立第一中学として開校。学制改革によって昭和二十三年に青森市立第一高等学校、同四十四年に現在の県立高校となりました。昭和五十九年に男女共学となり新校舎も竣工。今日までの一万人三千人を超える幅広い人材を県下を中心に輩出しています。校訓は、「自治」「協和」「日進」。自主自立の精神、責任と協調性のある心、創造的な思考力と理性的な判断力、優れた体力と精神力を兼ね備えた、心身ともに健全な人間の育成を目指しています。学習指導面では、ユニークな六十五分授業の活用によって指導の深化と基礎学力の充実が図られ、およそ四分の三の生徒が希望の進学を果たしています。



また、二つの体育館、球技場、野球場、陸上競技場、テニスコート、相撲道場など充実した施設を使った体育活動や部活動も盛んで、ラグビー部は花園大会に五回出場し、目下二年連続出場中。柔道部は県下の高校総体で二回優勝し、現在四連覇中です。

研究室から

教員インタビュー
教員の研究の今をインタビューでお伝えします

【論文名】 人口の移動と地域間分布 歴史的な変遷

◆助教 西村 淳
初めにかけての人口の推移をたどったのです。

人口の移動は経済と密接な関係があり、都市経済学を専門とする私の重要な研究テーマです。また、かねてより考古学に興味があり、大陸から渡来人の流入があったと言われる時代の人口の推移について、ぜひ調べてみたいと思っていました。

●どのような手法をとったのですか？

渡来人の数についての定説とされている、人類学者、埴原和郎さんの説を再検証しました。埴原説ではこの間、年間約三千人の渡来人が流入したと推計。奈良時代初めの縄文人对渡来人の人口比率は二対二五で、渡来人が圧倒的に優勢だったと推定しています。

私は埴原さんの使った数値の中で疑問に思ういくつかを検討を加えました。具体的には、縄文時代晩期の人口を埴原さんよりも、奈良時代初期の人口を少なめに見積もり、出た数値を埴原さんと同じ数式に代入し、数字を出してみました。結果は年間約三七〇人、埴原説の八分の一程度の数になりました。これをもとに奈良時代初期の縄文人对渡来人の割合を推定すると、一対〇・四になり、逆に縄文人の優勢となりました。



【論文名】 「オートポイエーシスと会計」 試論序説

◆助教 今井敏博
オートポイエーシスとは？

生物学者のH・R・マトラウナとF・J・ヴァレラが提唱した、システムの概念です。従来の概念とはシステムを捉える視点の位置がまったく異なっており、システムというものに対する既存の考え方を一八〇度転換させる思考枠と言われています。今、世界的に注目を集めている「複雑系」にも近いところがあります。オートポイエーシス語で「ひとりでに」、ポイエーシスは「創造する」という意味。オートポイエーシス的なシステムとは、ひとりでにいうと、生命体のような自己創造システムです。生命体はその構成要素である細胞を自ら創造し続けることによって、存在し続けます。こういう面は社会や経済にもありますよね。そこでオートポイエーシスの論理を社会学や経済学に応用して、いろいろな現象を考えようという動きが出てきています。

●その思考枠を会計学にも適用してみようという研究なのです。

そうです。オートポイエーシスの考え方で会計を捉えると、従来の見方がどう変わるのかについて考察を試みたいと思っています。



【論文名】 「規制緩和論と 産業政策史研究」

◆専任講師 寺田隆至
テーマについてお聞かせ下さい。

ここ数年、規制緩和と必要論が盛んです。その議論の特徴の一つは、規制緩和を、景気対策といった当面の政策課題として提起するだけでなく、「明治期」や「戦時期」以降の日本経済の発展史の中に位置づけていることです。そこに焦点を合わせて検討を加えてみました。

●論点を説明下さい。

明治以降「先進国に迫っていく」段階では、産業政策や規制によって特定産業を支援するシステムは有効だったが、「迫いつき」段階の終了によってそうした政策・規制は無用になった、という議論があります。こうした議論で言及される産業政策や規制は、高生産性部門の戦略的産業政策なのですが、実は、これは、現在、規制緩和の対象となっている政策・規制とは異なる類型のもです。現在の規制緩和対象の多くは低生産性部門のそれだからです。歴史認識と現在の規制緩和との間に、ある種の「ズレ」があるのです。これを入口にいくつかの問題点を検討しています。

●このテーマを設定した理由は？

規制緩和は、個々の産業の発展段階や地域産業振興との関係など複眼的な視点で論じられるべきだと思うのですが、現実には必ずしもそうではない。この点を、特定の事例を過度に一般化している産業政策史認識の問題と絡ませて追求したかったのです。



【論文名】 オーウェル試論

◆専任講師 山田康夫
オーウェルの作品といえば「1984」が有名ですね。

「1984」はソ連批判の作品であり、社会主義批判と考えると何の不思議もない内容です。しかし、オーウェルは彼が批判したのはソ連の全体主義であり、社会主義ではないと言いつつ切っています。彼は、社会主義と全体主義が同心円上にあることに気づいていましたが、社会主義そのものを批判しようとはせず、最後まで社会主義を捨てませんでした。

●なぜ彼は社会主義にそこまでこだわったのでしょうか？

社会主義こそ必然であるという時代的雰囲気のおかげで、彼は、人間が皆平等であるような理想社会を社会主義の中に求めました。のちに、社会主義は限りなく全体主義に近いことを認識するようになるのですが、かといって資本主義を信じることもできませんでした。結局、社会主義を選択し、それを運用する人間の人間性に望みを託したのです。思うに、オーウェルという人物は、理想社会の実現を固く信じた理想主義者でした。彼にとって社会主義を捨てることは、そうした理想社会の実現をも否定することだったのではないのでしょうか。



●事務局長 石崎福邦

「三毛猫」の撮影が進んでいた五月二十三日、大林監督や主演の陣内孝則さん、葉月里緒奈さんらによる制作発表会が函館市内で行われ、翌日の北海道新聞に、監督

早朝の学長室は、開場前のコンサートホールに似た静寂さに包まれています。演奏関係者のみが、その静けさに不思議な緊張感と魅力を感じます。

学長の登壇と同時に開幕となり、さまざまな来客により、多彩な一日が展開されます。

平成八年四月二十二日は異色の来賓となりました。映画監督の大林宣彦氏ご夫妻は、スタッフ一行です。赤川次郎原作「三毛猫ホームズの推理」を、本学学生寮や函館短期大学のキャンパスを主舞台に映画化した。挨拶が進むうちに、河村学長の妹御と監督夫妻とは、自宅のある尾道で顔見知りの間柄であることが判明し、一転して和やかな場面となりました。人の縁が演出する縁というものでしょうか。

函館での撮影は五月後半の二週間でした。あいに雨天続きとなり、日程調整のための昼夜を問わないクランクインに、大学に隣接する校宅の寛容な住人も音をあげたようでした。

異国情緒あふれる函館の街は、港町の醸し出す切なさや相まって、日本映画の舞台として好まれるようです。「居酒屋兆治」(高倉健・加藤登紀子)、「キッチン」(川原亜矢子・松田ケイジ)、「夕陽の丘」(石原裕次郎・浅丘ルリ子)、「赤いハンカチ」(同・同)、「ギターを持った渡り鳥」(小林旭・浅丘ルリ子)、「オートバイ少女」(石堂夏央・あがた森魚)、「いつかギラギラする日」(萩原健一・木村一八)。これらの映画はエアーニッポン機内誌AOZORA(平成八年九月号「映画の中の函館」)に特集されたものです。それにしても多くの監督たちは、ロケーションになぜ函館を選ぶのでしょうか。

の談話が報道されていました。「函館は漂泊の末に集まった人々の間にきずなが生まれる場所」というイメージが強く、心の微妙なひだを表現できる」と。この言葉に私は或る種の驚きを覚えました。

明治四十年五月五日、首宿(ぼくしゅく)社に迎えられて函館の住人となった石川啄木は、同日の日記に「我は世界に家なき浪々の逸民なり」と記し、自らを漂泊者と称して憚らなかつたようです。事実、大火があつたといえ、啄木の函館在住は同年九月十三日までの百三十二日間であり、その後、札幌十四日間、小樽百十五日間、釧路七十六日間、その後は函館を経て上京しています。「啄木は一地方都市で定まった住居や生業を持ち、そこで生活の根を生やすことを恐れたのである。なぜならば、それは文学生命を断つことにつながると考えたからである。」(桜井健治。平成八年八月二十九日付北海道新聞)

漂泊者「啄木」函館。ひょっとして、このイメージも大林監督の脳裏にあったのではないのでしょうか。

私の生地は北海道の中心に位置する富良野市(当時、町)ですが、両親が教員であつたこともあり、中学校卒業までに五度も転校したためか、私の中の古里は定まっています。定住地としては、むしろ函館が圧倒的に長いのですが、しかし、私の古里ではありません。

函館にとつて私はヨソ者です。

その私が、昨年五月二十三日の大林監督の談話に驚きを感じたのは、漂泊的な私があり出されたからではなく、函館の身内者としての不快感が私の胸の中に見いだされたからでした。私の函館での定住生活は今年で三十二年となります。



著書紹介

『たとえ』で学ぶ英語

「使える英語」を身につけてもらおうと何冊か本書を書いてきました。

本書は、このような表現の代表格「たとえ表現」について、体の一部分や動物、色を使った言い回しを中心に、由来やエピソードを交えて紹介したものです。

いくつか例をあげると、worth one's salt(「直訳」塩の値だけの価値がある)は、「給料分の働きがある」の意。給料を生きたために必要不可欠な塩に例えた表現です。Under the roses(「直訳」バラの下で)は「秘密に」の意。バラが秘密の象徴だったことに由来しています。in the pink(「直訳」桃色に在る)は「健康そのもので」の意。ピンクという単語に日本という「お色気」の意味はありません。

テキストとしてだけでなく、普通の読み物としても読んでいただけるよう工夫を凝らしたつもりです。「たとえ表現」に、にじみ出ている英語圏の発想や文化を感じとっていただければ幸いです。

幸いで。英検の受験勉強にも役に立ちますよ。



『東西南北』

(アト北海道出版)

教授 大嶋 隆



「礼は往来を尚ぶ」「礼記」「曲礼」と申します。いろいろな方から著書を頂戴している。そのお返しにと、旧文を拾い集めて本の体裁に仕立てたもの。まあ、往事を追懐する老愚の所作というところ。『東西南北』という題名は、書中に収めた中国哲学科学生時代の学友への追悼文の題名をとったものですが、もとは私の卒業論文「中国古代学」の基礎作業としての漢字研究の最初の作品の表題でもありました。

学校関係の刊行物のために書いた、謂わば業務用の文から、漢字物語、さらに中国古代学の諸問題に至るまで、種々雑多の文から成っています。体裁を整えれば「論文」と銘打つてよいものも何篇かありますが、それらは本来「文章」として発表したものです。こういう本ですから、中国古代学雑文集とも思っていたらだいて結構です。しいて特徴を挙げるとするならば、若者より年配者向けということで活字を大きくしたという点でしょうか。

『ちよつと向学心』

(北海道新聞社・函館大学基礎教育研究会)

助教授 今井敏博



何とこの本は、四千部も印刷されてしまったのです。北海道新聞社の人とはじめの打ち合わせでは三千部とかいう話でしたが、いざ出版の際の契約書では、初版四千部とあつたのです。執筆一同(十七人)、三千部でも「どう売るか」と思っていたのが、四千部となつては、これは大変だと一部あわてたのです。でも本当に売れるかもしれないのです。装丁もよいし、中身は一級品です。この本の元になったのは、以前本誌で紹介された「知案考綱」ですが、それをコトコト煮込んで、北海道新聞社出版局の人達の、高校生からお年寄りまで、またサラリーマンにも役立つようにと欲張った企画・アドバイスに、執筆一同応えて書き換え手直しをして、なんと当初予定のひと月遅れで出来た結晶です。このような啓発書を協同作業でできるのは、今の日本の大学では東京大学と函館大学だけです(たぶん)。

ということ、買って損のない本です。全国主要書店(大きい書店、例えば八重洲ブックセンター・紀伊国屋のような)で売っていますからぜひ買ってください。(近所の書店でも注文できます)。定価一五〇〇円十税金です。内容は、常識を問う発想や文章作法、アイデアづくり、マルチメディア、プレゼンテーション、学長執筆の建て前と本音、人間関係の心のあり方等々盛りだくさんです。



資格に挑戦!



「通関士試験体験記」
●九六年卒業
宇田川貴司
(函館西高校出身)

す。通関士は、通関手続きを適性化するための国家資格です。

四年の夏、私は就職が決まらずに悩んでいました。通関士は高月先生も講義で触れておられ、以前から興味がありました。私は覚悟を決め、就職活動を一時休止して勉強を始めました。難しいと思っていた内容も、慣れると面白さを感じるようになりました。合格には六月の勉強が必要だといわれるのですが、私は三カ月の猛勉強で臨みました。札幌での試験が終わり、発表まで落ちつかない日々が続きましたが、合格通知が届いたときには誇らしい気持ちでいっぱいになりました。

年が明け、再開した就職活動も感触がよく、中でも通常四千人の応募者の中から筆記試験、三回の面接で七十八人に内定を出す企業から一日の選考で内定をいただいた時はこの資格の強さを実感しました。その企業が、私が今春入社した郵船航空サービス株式会社です。

私は資格によって就職活動を成功させることができたが、資格にだけ頼ってしまつては間違いだと思えます。資格を持つだけでは能力がなくては全く無意味だからと思うからです。しかし、何事も目標を置いた勉強は能率的ですから、資格を一つの手段としてとらえる事は大いに有効です。



「TOEICで七三五ポイントを獲得」
●国際英文秘書「一」四年
藤井ゆり
(秋田北高校出身)

英語の受験勉強で大変なのは、いろいろな表現を覚えなくてはならないことです。私の場合、高月先生の講義で「表現から英語圏の文化が見える」ことを知ったから、覚えるのがぐっと楽しくなりました。新しい表現に出会うたび、異文化に接する面白さを感じたからです。

就職のため、試験のための勉強だと思つと、辛くなつてしまします。楽しんで続けられるように、自分なりの面白さを見つけていることが受験勉強の秘訣だと思ひます。



「日本中世の氏・家・村」校倉書房・二万四
助教授 坂田 聡

日本の歴史上、代々続く「家」が民衆社会に登場したのはいつごろだと思ひますか。私は室町時代(十四〜十六世紀)ではないかと考えています。また、高度成長期以前の日本人の生活や意識をあらゆる面で規定した「村社会」が成立したのも、この時代の後半あたりではないかと思ひます。

本書は、そうした「家」や「村」が室町時代に形成された過程を、京都郊外にある旧家の歴史調査をもとに明らかにしたものです。代々続く家の必須要素である家名と家産(家固有の財産)が、鎌倉時代までの家にはありませんでした。夫婦は別姓を名のり、各々の財産をもち、それを子供全員に均等に分配したので、家は分割され続け、せいぜい一代どまりでした。それが室町時代になると、代々住んでいる地名を苗字として名のる「家」が出現し、土地や財産は「家」所有のものとなり、家長のみがその管理権を握るようになりました。そして、このような「家」を構成単位とする「村」が形成されていったのです。これらは、戦国時代から江戸時代初期にかけて一般化していききました。





PROFILE

教職員



子供に育みたい思いやりの心

◆教授 鈴木正義

北海道教育大函館校で三十二年にわたって教鞭をとってきた鈴木先生。昨年、函館大学の教授に就任、教育実習などの講座を担当しています。専門は教育心理学で、「いじめ」の深刻化には強い関心を寄せています。「カウンセラーなどのサポート役は一定の役割を果たせるでしょうが、やはり学級内のことをいちばんよく知り得る学級担任が中心になって解決していくべき問題だと思います」。

いじめが行われている学級内では、いじめられる子といじめる子、ヤジウマ的な子、そして我関せずの子と、友達関係が硬直化してしまっている場合が多いと指摘します。「だから、クラスの輪から一度はずれてしまおうと、逃げ場がなくなってしまうんです。いじめ防止策を練るのも重要ですが、それ以上に思いやりや助け合いの気持ちを子供に育む教育が大事だと思います。教育現場だけでなく、社会も子供の心の中にもっと目を向ける必要があるのではないのでしょうか。ノルウェーでは、いじめ撲滅のために国をあげてプログラムを組み、実行しているんですよ」。

全日本学生チームの金星に涙、涙…

◆助教授 松喜美夫

ハンドボール部監督の松先生がコーチを務める全日本男子学生ハンドボールチームが、第十四回世界学生選手権大会（昨年十二月、今年一月、ハンガリー）で六位入賞という過去最高の成績を収めました。予選リーグ戦では、世界随一の強豪で前回の覇者であるロシアを接戦の末、破るという金星を上げ、世界の注目を集めました。男女ナショナルチームを含めても、日本がロシア（旧ソ連時代を含む）に勝ったのは初めてのこと。日本のハンドボール界は、「サッカーに例えるとブラジルに勝ったような歴史的勝利」と、彼らの健闘をたたえました。六年前から全日本男子学生チームのコーチを務めている松先生。勝利の瞬間は涙と震えが止まらなかったそうです。「このような貴重な経験をさせてもらったのは、頑張ってくれた選手たちや日本、世界のハンドボール関係者、そして函大関係者の皆さんのおかげで、深く感謝しております。世界各国の素晴らしい選手や指導者たちに出会って、学んだことはたくさんあるので、今後の函大チームの強化に活かしていきたいと思っています」。



ヘラブナ釣りが大好き

◆助教授 永盛恒男

民法が専門で、債権法と法学の講義を担当している永盛先生は、東京から函館に移り住んで今年で十一年目になります。「東京を小さくしたような地方都市が多いですが、函館は独自の魅力を持っている。このことの素晴らしさを本学の学生諸君にはぜひ理解してもらいたいものです」。

釣り、演歌、落語、カメラと趣味は多彩。なかでも釣りは長く、二十年以上になるとか。「函館大学への着任が決まった時はうれしかったですねえ。僕は釣りの中でもとくにヘラブナ釣りが好きでね。函館はヘラブナのメッカ、大沼に近いですから。もちろん、それがうれしかった理由のすべてではありませんよ（笑）。念のため。そこまでは夢中になれるヘラブナ釣りの魅力は、どんなところにあるのでしょうか。「浮きの微妙な動きを手がかりに、水面下でヘラブナがどう泳いでいるのかを推理し、エサのやり方や釣竿の握り具合を加減するんですが、全神経を集中させてヘラブナと駆け引きをする、その過程に醍醐味があるんですよ」。

「就職しない学生」の将来が心配

◆就職課長 新関喜美男

函大OBの新関課長は、職員歴二十四年という超ベテラン。「二十代の頃は学生諸君が弟や妹のように感じられたのですが、私が、私も年をとったもので（笑）、今じゃ息子や娘を見るような思いです。就職をひかえた子供さんのいる父母の方がたのお気持ち、同じ親としてよくわかります。それだけに就職活動のサポートにも力が入るとか。依然として厳しい就職環境ですが、新聞課長には、それよりもっと気にかかっていることがあるそうです。「近年、自分のやりたいことが見つからないからという理由で就職しない学生が少なくないんです。確かに、自分が何に向いているか、何をやりたいのかは、小さな体験の積み重ねの中から、少しずつ見えてくるものではないでしょうか。大学生には、そういう体験をする場と時間が与えられているのだから、いろんな人に会ってみよう、いろんなことをしてみようという積極性を持って毎日を通じて欲しいと思います」。



「生」の光と影を描きたい

◆非常勤講師 宮西詔路

美術科の講師を二十余年にわたってつとめている宮西先生は、春陽会と全道展の会員です。「私が今こうして画家として絵を描いていられるのは、たくさんの方のおかげで、絵の修行が出来たのも、北海道出身の経済人のかたがアルバイトを紹介して下さったからなんです。私は本当に人との出会いに恵まれてきました。こうした経験から、何事にも感謝の気持ちをもって接すること、人や動物には愛情をもって接することを、信条にするようになったそうです。先生がここ八年ほど取り組んでいる題材は「馬」。農耕馬が多く飼育されている道東にしばしば足を運びます。「馬は人なつこくて、やさしい動物。馬の居る風景にはボエジーを感じます。しかし彼らはいずれ家畜として死んでいかなければならない悲しい運命を背負っている。生きることが、素晴らしいことであるとともに哀しいことでもあります。そうした生の光と影を馬を通して表現していきたいと思っています」。



本に親しんで世界を広げて欲しい！

◆図書館員 小本真由美

公共の交通機関を乗り継ぎ、片道一時間半！をかけて通勤している小本さんの日々の目標は、自動車の免許を取得してクルマで通勤すること。「スポーツを楽しむ時間的な余裕もできるし、自分で運転できれば休日の行動範囲も広がりますから」。夢はふくらむ一方のようです。大学生の活字離れがよく指摘されますが、「函大では最近、図書館を利用する学生の数が増えてきているように思います」。人気があるのは村上龍、村上春樹の小説とか。「私も小説は好きなんです。一冊読むごとに自分の世界が広がるような気持ちになれるの。社会人になると何かと忙しくなると、じっくり本を読みたいと思っても、時間をひねり出すのがなかなか大変。学生時代に、大いに図書館を活用して読んでもらいたいと思います」。図書館員は、先生がたと接する機会も多い仕事。「出身地もキャリアも皆さん本当にいろいろで、それに何より個性豊かなかたばかり。お話を聞いて楽しいです」。





就職部長・助教授 大江田清志

各種のマスメディアは、企業業績の回復と、これによる新卒者採用の拡大を報じています。しかしながら、平成九年度における就職市場の全体は、「ゆるやかな景気回復」の就職市場への実体的な反映は遅々としており、就職を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあると認識されます。本年度は、とくに就職協定の廃止元年になります。これにより、企業による採用活動の早期化、長期化、多様化が進展するというのが、一般的な見通しになっています。本学が二月の就職懇談会の開催時に実施した調査でも、採用時期の早期化の意向をもつ企業は、東京地区で解答企業の四〇%、大阪地区では六九%を占めていました。

採用開始時期が早期化する一方で、複数の企業から採用内定を得る重複内定者の増加や学生による企業の最終選択の遅れ等により、企業の採用活動は、これまでよりも長期化すると言われています。

また、一括集中型の採用から分散採用型の併用や職種・部門別採用の試行等により、採用活動は多様化しはじめています。

選考方法についても、筆記・適性検査はもとより、小集団での面接、討論、演習などによる多面評価方式を併用する企業が増える傾向にあります。

このように厳しい就職戦線を乗り切るポイントとして、次のものが考えられます。

- ①「就社」よりも「就職」意識を高め、基礎的な学習を蓄積しておくこと。
- ②職業観について考え、そのための研究をしておくこと（目的観にたつアルバイトは、このための良い経験になる）
- ③自らをアピールできる資質を大学の三年間で磨き上げておくこと。
- ④日常生活において、元気のよい機敏な動作、言動を心がけること。
- ⑤新聞の一面記事、経済面や総合雑誌を読む習慣をつけること。
- ⑥大学の主催する就職講座・セミナーに出席し、考え方や技術的学習をはかること。
- ⑦常にホットな情報を持っている就職部スタッフの助言を受けること。

また、就職活動のステージは、三十余年の歴史を持つ本学OB諸氏の活躍によって支えられているということも意識し、一人の自己実現に向けたチャレンジを期待しています。就職部としても、全学的な協力を得ながら就職実績の質・量を高めていくことに邁進いたします。そして、このことはまた、ご父母の皆様や企業、受験生から高く本学を評価していただく一助になると考えられます。ひいては、入試マーケティングと付加価値の高い学生の産出に寄与することにもつながるという循環を確信し、これからの事業展開に取り組む所存です。

企業訪問報告



専任講師 佐藤元治

経済がボーダレス化し、企業は国内だけでなく海外のライバルとも競争しています。この傾向は今後さらに強くなると思われます。今までの多くの日本企業は新卒者を企業内研修（オン・ザ・ジョブ・トレーニング）で教育していたため、入社時点で専門知識や技能をどのくらい習得しているかは、あまり問いませんでした。しかし今後欧米等の企業と対等に競争するためには、入社時に既に一定の専門能力を身につけた「即戦力」足りうる人材が求められています。ほとんどの企業の採用担当者が、大学で何を学んできたか、企業に入ってからどんな仕事をしたいのか、という点を今まで以上に重視すると話しておられました。また、以前から言われていることですが、日本企業は企業内の各部署を経験して企業全体の仕事に分かるゼネラリストの養成に力を入れてきましたが、今後は特定の仕事に長年携わり高度な専門知識が要求されるスペシャリストへのニーズがさらに高まるでしょう。

これらのことは、学生諸君が学問でも趣味でも何かひとつ興味のあることに打ち込めば、それを大いに生かせるチャンスがあるということではないでしょうか。学生生活をエンジョイすると同時に、ひとつでも熱中できるものを見つけて欲しいと思います。

就職課係長 干場 勝

平成四年四月に就職課に配属されて以来、主に札幌地区の企業を担当しています。道内企業は厳しさの増す経営環境のなか、限られた人材で事業を展開していかねばならない状況が続いているようです。採用担当のかたの多くが「欲しいのは、営業と事務の両面をうまくこなしながら、未知の分野にも興味と意欲を持ったのぞんでいける柔軟性とチャレンジ精神、バイタリティを備えた人材」と強調されていました。

五月末には、同月八日に本学が函館で開催した業界研究会・就職懇談会に参加していただいた企業のうち、札幌地区の企業二十数社を、参加御礼をかねて訪問してきました。これには、各企業に本学の学生がどれくらいアタックしているかをお聞きするという目的もありました。就職協定の廃止で就職活動が早期化し、以前にも増してこの時期、四年生は大学にあまり姿を見せなくなり、学生から直接、活動の進展具合を聞くのが難しくなり、状況把握がしづらくなっています。

積極的に就職活動に取り組んでいけば問題ないのですが、一部、エンジンのかかりの遅い学生や就職活動そのものをしようとしないう学生もおります。就職課では企業から収集した情報をもとに、求職学生の活動のサポートしながら、就職に意欲的でない学生の指導にも力を入れています。



業界研究会・就職懇談会の開催

去る五月八日（木）十二時から二十時にわたり、函館ハーバービュー・ホテルにて、本学主催による恒例の業界研究会、就職懇談会が開催された。東京・札幌・函館を中心とする地区から多数の上場企業を含む六十五社の企業が参加した。

業界研究会では、二五〇名の本学学生が出席し、企業の人事担当役員や管理職の方々から、個別に当該業界・企業に関する説明を受け、質疑がなされた。四時間にわたり、企業と学生双方による熱心な交流が個別に続いた。これにより、平成九年度の就職活動は一気に加速される。



「私」の就職活動

就職戦線のまん中で

◆武相高校出身・四年 小野友隆
今年に入り就職協定の撤廃によって、就職活動が昨年に比べて早まっているようです。実際、四月には内定を決めてしまおうという企業もありました。

四月下旬頃、東京では会社訪問が盛んで電車の中や街中でも分厚い研究ノートを携えた学生をかなり見かけました。私の場合、三月中旬頃から活動を始め、五月中旬までに単独セミナーに四社ほど出席しました。しかし首都圏の学生から聞いた話によると二月ころから動いており、さらに出席したセミナーは一〇社を超えているということです。その話を聞いて、「就職協定撤廃は地方の学生にとって重くのしかかってくる」ということを改めて痛感しました。

自分の体験から、会社訪問（セミナー）について素直に思ったのは、まず第一に、気になる企業のセミナーは何度でも出席すべきだということ。ポイントとして、座席はつねに前の一、二列目で正面の辺りが望ましいです。その方が顔を覚えてもらいやすいからです。次に、周りの人達が多くの企業を訪問しているからといって自分も、といった焦らず、ペースをしっかりと守り、感わされないうことです。そしてなにより大切なのは、自分が何をしたいのかを見出し、目標を持つて企業訪問することだと思っています。

私の就職活動もようやく中間点といったところで、八月には納得できる結果を出したいと思っています。そして自分の一生を決めるとことなので、迅速かつ慎重に行動したいと考えています。悔いののこらないようにしたいと思っています。



《「企業紹介」協力をお願い》

お知り合いの企業をご紹介ください。本学就職部では、「企業紹介」キャンペーンを実施中です。実施要項は以下の通りです。

- 1 目的／本学関係者の人脈を通して学生採用意向を持つ企業の紹介を受け、学生の良質企業への就職を促進します。
 - 2 実施の対象／①本学学生のご家族、②本学のOB、③本学の教職員
 - 3 実施の内容／①「企業紹介カード」によるご紹介をお願いします。
 - ②紹介の受付、学生への斡旋は就職部で責任を持っています。
 - ③紹介を受けても、学生の希望がない場合は斡旋いたしかねます。
- 4 受付期間／平成九年七月から十二月十日まで。

私にとっての就職活動

◆福島女子高出身・四年 後藤美佳
歴史的不況の中、就職活動もさらに大変になったと言われていますが、私は逆に、そのような時期に就職活動ができると言うことがうれしくさえ思われます。今の就職活動に必要な自己分析も、自分を見つめなおす良いきっかけになりました。今やらなければ、たぶん一生、自分のこともよく分からないまま人生をおくるはめになってしまったのではないだろうか。

小さい頃、将来の夢について、自分は〇〇になりたいと書いたのを覚えていますか？今まさにその夢をはたす時が目の前に迫ってきているわけですが、逆にその夢を今、果たしてしまつて良いのだろうか、夢を果たしてしまつた後はどうなってしまうのだろうかと考えてしまつて自分です。

私は今、就職活動の真っ最中です。実際に就職活動をしてみて感じたことは、自己分析はもとより、学ぶことが本場に多いということです。きつと卒業して何年か後に、大学生活四年間の中で学んできたことを振り返ったとき、短い就職活動中に学んだことに集約されそうに気がします。

ですから、「就職活動は大変ですね」と会う人ごとに言われるのですが、私は大変だと思つたことは一度もありません。それは、もしかしたら就職するということの先に、さらに大きな夢を持っているからかもしれません。

そんな私ですから、就職が決まつた時の私ではなく、その五年後、一〇年後の私を見てください。きつと次の夢を果たして、今よりもさらに大きくなつていっていると思います。



最近の大企業の相次ぐ不祥事は、日本の企業が抱えている構造的な問題点を浮き彫りにしました。「日本の企業の支配構造は、一般に不透明。業務執行の意思決定機関、取締役会に於ける経営責任の所在が不明確で、サラリーマン社長という現象が一般化しています。さらに、代表取締役・会長・社長などをチェックする権限を法的に与えられている取締役会・監査役も、株主総会も、形骸化してしまっている。その正常化のために商法が改正されているが、今だに多くの企業では、同一日に一斉に開催されて形式的な株主総会が続けられています。こうした世界に類のない、あいまいな支配構造は、日本の資本主義社会の盲点・恥部といえますね」と河村先生。株式会社法を取り上げている河村ゼミでは、日本でなぜこうした支配構造が出来上がり、それが通用しているのか、改善策はあるのかなど、ケーススタディを通して考察しています。「日本の株式会社においては商法のめざすところと現実の間に大きなギャップがあることを、先ず、これから社会に出る学生諸君に、しっかり認識してもらいたいと思います」。



日本型企業統治の問題点について考察

【商法(会社法)ゼミナール】

◆教授 河村博旨

ゼミナール紹介

開かれた大学をめざす函館大学では、「聴講生」制度を設置し、学習意欲をお持ちの市民の方がたに学びの場を提供しています。

この制度を利用して、英語の勉強を続けている
松田久美子さんにお話を伺いました。



松田久美子さん

聴講生になって英検二級に合格
松田さんは函館市在住の主婦。聴講生になって今年でもう四年目です。「学生時代から英語は好きでした。時間に余裕が出来たら基礎から勉強し直したいと思っていました。函館大学の公開講座を受けたところ面白かったので、聴講生になろうと」。三年間にわたって、高月先生の講義を受講。「単なる読解ではなく、英語圏の発想や文化についても触れる講義内容で、興味が深まりました。英検必勝法も伝授していただき、おかげで二級に合格できました。ますます英語が好きになりましたね」。

函館大学が身近になった

今年は「英会話」を選択しています。「子供たちが独立したら英語圏で生活してみたいと思っているので、会話力をつけたくて。家族の中で英語にいちばん熱心なのは私だと、息子や娘は言うんですよ。ちょっと見直されたかな(笑)」。

週に一度の講義が待ち遠しいそうです。「函館生まれの函館育ちなんですけど、正直に言ったら函館大学にはそれほどなじみがなかったんです。でも、こうして聴講生になってからは身近に感じています。社会人になっても、じっくり勉強できる場所があるのはうれしいことです。受講料が安いのも魅力。お友達にも勧めているんですよ」。

【会計学ゼミナール】

◆教授 新谷典彦

数字に明るく、心も明るい人間に

企業における損益計算のしくみについて深く理解することを目標にしています。時には、経済問題をタイムリーに捉えてディスカッション。企業をとりまく環境の変化についても考察しています。モットーは「勉強もコンパも楽しく」で、そのせいか、ゼミ室内にはアットホームな雰囲気が漂っています。「人間関係をつくる能力があるかどうか、社会に出て活躍するための重要なポイント。本学の卒業生の多くは企業に就職し、営業マンになりますから、そうした能力はとくに必要です。ゼミでも、学ぶ過程を通して、仲間を大切にする心、わからないことはわからないといえる謙虚な心を養ってほしい。財務諸表が読め、かつ、人間的魅力に富み、職場や顧客から信頼される人材に成長してほしいです」。



「活動の相談、報告の電話は、夜中の二時まで受け付けています」。親身な人柄がゼミ生を強くひきつけています。

ビジネスマナーABC

◆助教 藤嶋 暁

ビジネスに哲学を

今回は「ビジネスマナー」を広義にとらえ、ビジネスに携わる上での心構えについてお話したいと思います。

バブルの後遺症に苦しむ近年の日本は、新興工業国の追い上げもあって、国際経済の中で影が薄くなった感があります。さらに最近、日本を代表する大手企業でも不祥事が続発。日本企業全体に対する国際的信頼が著しく損なわれました。個人の価値観の多様化などの時代の変化も影響して、今、日本の企業全体に、ビジネスの方法や経営のあり方についての見直しが行われています。今後十年ぐらいの間は、それらの新しい枠組みを築くための試行錯誤が続くでしょう。私は、企業レベルでの再検討とともに、ビジネスマン一人ひとりのレベルで、仕事に対する姿勢を問い直す必要もあると考えています。従来の企業行動はいわゆる組織の論理・マクロが、ミクロ―一人ひとりのビジネスマンを動かすという図式に則っていましたが、これからはミクロがマクロを動かすようになるだろうと予測しています。そうなってくると、ビジネスマン個々の能力はもちろん、仕事に対するフィロソフィー(哲学)が、より重要な意味を持つようになると思います。

「誠意」を問う直ぐことが第一歩では

では現実問題として、どんな心構えを持ったらいいのか。必要不可欠なのは、「誠意」だと私は考えます。私利私欲に走らず、顧客や社会の利益を第一に考え、

周囲の人々に誠実に接しながら仕事をする姿勢です。「そんなこと当たり前じゃないか」と、思われるかもしれませんが、しかし、これまでの日本はこの当たり前のことを忘れがちだったのでないでしょうか。それがいるいるな面を生きようか。自分に思えます。自分だけよければいい。自分の会社だけよければいい。こういう考え方は、もはや国内でも世界でも通用しません。また、いかに社会に貢献していくか、そのためにいかに生きるべきかという哲学の裏付けのない仕事から、ビジネス創造に必要な新鮮なアイデアが湧き出るはずありません。真に顧客や社会の役に立つことを願って展開されるビジネスこそ、経済に良いインパクトを与え得ると思います。



【経営戦略論ゼミナール】

◆助教 高橋 真

多角的アプローチで経営戦略を研究

実際の企業の経営戦略とそれを遂行する組織づくりについて、様々な角度から研究しています。高橋ゼミの特色は、学習方法がバラエティ豊かなこと。

企業がどういう戦略によって経営上の問題を克服してきたのかをケーススタディするといったオーソドックスな方法から、一部上場企業について調べた結果をもとに株式投資のシミュレーションゲームをしたり、人事管理の問題などについて「自分が管理職の立場であればどういった対応策をとるか」を発表し合ったといったユニークな方法まで様々です。

こうした体験的な学習を通して、ゼミ生たちは経営や組織運営のセンスを身につけていきます。

「人にモノを教えた」り考えさせたりする、いろいろなやり方があるというところを、知ってもらいたいと思います。彼らが社会に出て、教える立場にたつた時に、きっと役に立つと思いますから」。



湯川「わか松」



◆代表取締役社長 中澤秀雄
函館市湯の川1丁目2-27
TEL 0138-59-2171

古くから高級旅館として知られ、天皇陛下の御泊所となったことでも有名な「わか松」。その重厚かつ優美な和風建築は、函館湯の川温泉郷のなかで独自の存在感を放っています。創業は大正十一年。代表取締役社長の中澤秀雄さんは四代目に当たります。「始まりは小さな民宿だったそうです。大正から昭和にかけて、函館は北洋漁業の基地として飛躍的に発展しました。それに伴って当館のお客さまも増え、今日の基盤を築くことができました。世界最大の漁業会社といわれた日露の社員をはじめ、たくさん漁業関係者の方がたにご利用いただきました。終戦直後の一時期は、進駐軍将校の宿舎として使われたこともあったと聞いています。時代の移ろいともいろいろな方がたをお迎えしてきた当館は、まさに函館の歴史とともに歩んできたのです」。

本館と呼ばれる和風建築の建物は総檜造り。床のつややかな光沢から、掃除の入念さが伺えます。「従業員はスリッパを履かないことになっています。それで足袋が汚れるようではいけないのです」と中澤社長。「お客さまとの出会いを大切に、期待以上の満足をお届けするため自分たちの精一杯を尽くす。茶道における一期一会の精神が、私たちのおもてなしの原点です」。

千利休の高弟、南坊宗啓の名をとり、新館は「南坊」と名づけられています。「道南にある旅館という意味も込められています。函館のローカル色をどう生かすかについて、も、代々の経営者は心を砕いてきました」。海の美しさを堪能してもらいたい、と、三十ある客室のすべてから海が見渡せる造りになっています。料理についても、函館近海でとれた新鮮な魚介類のほか、「食材の宝庫」北海道にある地の利を生かして、さまざまな旬の素材を取り入れています。「当館では、経営に携わる者は必ず一定期間厨房で修行を積むしきたりになっているんです。もちろん、素材や料理についての知識を身につけるためです。それがなければ、経営者になっても、職人さんに適切なアドバイスが出来ませんから。私も四年前包丁を持ったんです」。高級旅館としての伝統は、こうした確固たる経営哲学によって支えられているようです。

函館企業訪問

函館とともに培ってきた七十五年の歴史と伝統



南大大学発展のために
委員会報告書

●「一般教育」学生にとって魅力ある一般教育とすべく、教育内容、教授方法、科目設定などについて従来の教養科目の枠にとらわれることなく、種々の視点から検討を加え、考慮する必要がある。

●「商学・会計コース（商学系）」商学について体系的に学ばせるためには、個々の科目の問題だけでなく、授業科目全体での授業内容の検討・調整が必要。教授方法だけでなく、履修方法の工夫も同時に検討する必要がある。

【委員会だより】

◆自己点検評価委員会委員長・助教 坂田 聡

自己点検評価報告書が出来上がりました。ご意見、ご批判をお聞かせ下さい。

平成三年、大学設置基準が大幅に改正され、各大学の自主的・判断による特色ある大学づくりが求められるようになりました。それに伴って自己点検評価制度が導入され、函館大学においても、現在抱えている問題を洗い出し、改革の出発点とするべく、自己点検評価に取り組み始めました。

自己点検評価委員会は、その成果を取りまとめる常設の機関として三年前に設置されましたが、去る五月に報告書がまとまり、「函館大学発展のために―現状と展望―」と題して公表いたしました。父母の皆様や同窓生、学園関係者など、多くの方がたに閲覧していただき、批判や助言、忠告をいただきながら、本学の改革に活用していきたいと教職員一同、期待しております。

ここでは報告書の中から「教育」と「就職」の課題について、要点をご紹介します。

【教育】

●「就職指導」学生にとって魅力ある一般教育とすべく、教育内容、教授方法、科目設定などについて従来の教養科目の枠にとらわれることなく、種々の視点から検討を加え、考慮する必要がある。

●「商学・会計コース（商学系）」商学について体系的に学ばせるためには、個々の科目の問題だけでなく、授業科目全体での授業内容の検討・調整が必要。教授方法だけでなく、履修方法の工夫も同時に検討する必要がある。



●「商学・会計コース」所属学生の多くが、専門的職業会計士の養成

というこのコースの目標を理解した上で所属していないという問題がある。少人数による段階的計算演習授業などのもったい目の細かいカリキュラムの導入が不可欠。

●「経営情報コース」現在、情報系科目では、情報処理の技術的教育が中心となり、集・加工し、それをどう経営に利用するかという、経営を意識した情報処理演習の検討が望まれる。

●「国際英文秘書コース」従来、英語教育に重点が置かれたが、今後、企業の業務活動において、中国やロシアとの係わりが多くなっていくことが考えられるため、これらの諸国の文化を理解するための教育や語学教育にも力を入れる必要がある。

【就職指導】

本学では就職実績が大学の評価要素の一つであり、学生募集を行う上で説得力あるセールスポイントになるとの認識から諸方を策を執行してきた。しかし、最近では動向に積極的な意味づけを持たない、これまでの大学教育では推し量ることのできない学生も見受けられるようになり、これらの学生層にどのような就職指導を施すべきなのか、という難しい問題を抱えている。本学ではゼミナール担当教員やクラブ顧問が学生の就職活動の手助けに当たっているが、就職部の助力、ゼミ担当教員・クラブ顧問の協力にはおのずと限界がある。最も重要な「学生の就職意識の向上」という基本的問題の克服は、学生自身がなすべきことで、このための環境条件を整えることが就職部の使命であると考えられる。

〈電算委員会から〉

◆電算委員会委員長・助教 若松裕之

今年十月、学内のパソコンが一斉にグレイドアップ！インターネットの利用も可能に。

電算委員会の提言に基づき、学内のパソコンが今年十月一斉に更新されます。

電子計算室および情報処理室の運営に当たっている電算委員会（教員六名で組織）は、二十一世紀の高度情報化社会に対応した情報処理教育設備の在り方について、大学からの付託により検討を重ねてきました。現在、情報処理室に設置されている六十二台のパソコンは平成元年に導入されたもので、その後の性能の進展を考えると古くなった感がありました。更新を提案したところ、受け入れられ、踏み切ることになったものです。

教育用パソコンとともに、教員の研究用、図書館の検索用、学生情報センター設置用、事務用のパソコンも更新されることになりました。合わせて約百台の最先端性能パソコンが導入されます。これにより、情報処理教育のレベル向上はもちろん、教員の研究活動の効率化、事務部門の効率アップ、図書検索のスピードアップなど、多くの効果が得られるでしょう。



今回の更新によるもっとも大きな変化は、インターネットの利用が可能になることです。本学を紹介するホームページを開発し、発信したいと考えています。本学への進学を希望している高校生や、企業の採用担当者、同窓生や父母の皆様など、多くの方々にアクセスしていただけたらと期待しています。

情報処理室は更新後も従来どおり常時開放します。今まで以上に情報処理室を利用してほしい、インターネットの利用やホームページの開設を通して、学習活動や学生生活を、より充実したものにして欲しいと思います。



私の函館散歩

「亀田川の清流」

◆専任講師 田中弘樹

私は函館に移り住んでやっと3年を過ぎたばかりの新米函館市民で、しかも初めの年には自家用車を持たなかったもので、いまだに函館に市内に知らない場所がたくさんあります。

最近、週末に家族で函館市内をドライブして素敵な場所を発見するのが楽しくなっています。今回は、そうして見つけた中で一番気に入っている場所を紹介したいと思います。ご存知の方も多いと思いますが、赤川町の笹田ダムの下にある貯水池橋のたもと川辺です。それほど広いスペースではありませんが、きらきら輝く亀田川の清流に直に手を触れることもできますし、浅瀬に勢いよく流れる水のF分の一の心地よい音を楽しむこともできます。川辺の土は水放けもよく、親しみやすい背丈の樹々がでしゃばらないようにぼつんぼつんと立っています。天気の良い日はバーベキューを楽しむ家族やグループでいっぱいになります。東京育ちの私にはこんな場所に車でほんの15分か20分でいけるということが

夢のように思われ、函館に来て良かったと思う今日この頃です。



「新島襄海外渡航乗船の処」

◆3年 渡辺正道（函館大学付属有斗高校出身）

函館生まれ函館育ち、住まいも函館山麓近くという私にとって、観光客の人気を集めるスポットといえども単なる見慣れた風景にしか映らない。そうした中で何故か私を引きつけてくれる場所がある。従来、函館のイメージは、函館山から見る夜景の華やかさに代表される面もあるが、反面、灰色の雲田気の漂うところもあるといわれる。それが薄幸の歌人「啄木」がこの地をこよなく愛した理由でもあったし、また数多くの映画やテレビ撮影の舞台とされる所以であろう。こうした中で引きも切らない観光客でにぎわうレンガ倉庫群から海岸伝いに西へ歩いて五分、古びた倉庫の陰にひっそりと

建っている記念碑がある。

後に同志社大学を創立した新島襄が、1874年夏、大志を抱き国禁を犯してアメリカに渡航した脱出場所を記念し、その場に建てられたものである。「男児志を決して千里を馳す、自ら辛苦を嘗めて豈家を思わんや、却って笑う春風雨を吹く夜、枕頭尚夢む故国の花」の自作の漢詩がそこに刻まれている。正確に意味を理解することはできないが、その時の彼の気概は感じることができる。

数えて22才。私と同じ年齢である。青春の血を滾らし、近代日本建設の夢を抱き、彼が世界に向かって発進した場所である。灰色イメージ「漂泊の末の地、函館」もこの記念碑の前に立つと、未来に向かっての出発点「先取・新進函館」と変わる。この記念碑は、私にとって多くの示唆を与えてくれる拠り所ともなっている。



学生たちの手でより良い学生生活を目指す組織「学友会」は、クラブに対する予算配分などの事務に当たるほか、行事の企画・運営、PRといった様々な活動を行っています。今とくに力を入れていている取組みについて各局長に報告してもらいました。

【総務局】



総務局長 八木沼亮君

●昨年度先輩がたが、函館大学のマスコットキャラクターをつくり出した（左イラスト）。イラストは、松先生の紹介で人気マンガ家、幸野武史氏に描いていただきました。学内公募で決まった名前は、「カンペー」。この「カンペー」を使ったシー



【文化局】

●文化局クラブに所属している学生間の交流が今ひとつなので、その橋渡しとなる活動を進めていきます。具体的には講演会の開催や、各クラブの活動内容を紹介します。講演会にはクラブに所属していない学生にも気軽に参加してもらいたいですね。やりたいことの発見に役立ててもらえたらと思います。



文化局長 若月洋明君

●昨年に引き続き、外部の専門講師をお招きして講習会を行っていきます。昨年はト



学友会実行委員長 植田英治君

●「学友会実行委員会」は、十月の学祭に向けて準備の真っ最中です。催しのプランを組んだり、パンフへの広告掲載を企業にお願いしたりと忙しい毎日です。昨年の学祭は二日間で延べ約一千人の人が来てくれました。各クラブが模擬店や展示会を開いたほか、先生がたも模擬店を出すなど協力して下さいました。余談ですが、学友会顧問のN先生のカラーは「美味い」と評判でした。



体育局長 佐藤知和君

●レーニングマシンの実技講習会を開き、好評でした。今年は「スパイラル」による効果的なトレーニング

クラブ紹介

ビリヤード同好会



●十五人のハスラー集団。週に一度、市内のビリヤード場で腕を磨いています。会員の半分が三年生。一、二年生の入部に期待しています。「ビリヤードに対して暗いとか地味とかいうイメージを持っている人がいるのが残念。一度やってみれば、そうじゃないのがきつとわかるはず」と、入間川裕之君。金井塚敏史君は、ビリヤードの魅力は「奥の深さ」にあると

Club

熱中してます！キャンパスライフ。

●グ大会を開いたり、楽しむことも忘れません。他大との交流試合も計画しているそうです。



入間川裕之君・金井塚敏史君

硬式庭球部

めざすは一部リーグ昇格

●部員数二十六名。昨年、北海道三部リーグから二部へ昇格を果たしました。ことし春の個人戦、全日本学生選手権北海道予選では、シングル四名、ダブルス四組、本戦出場という過去最高の成績を収めました。部員一同、勝利への意欲は旺盛。それは練習量の多さからも伺えます。シーズン中は日曜以外の毎日四時間。オフは体育館で筋力トレーニングに励みます。



吉田典典副キャプテン

ゴルフ部

精神力の強化が課題です



岩山康弘君・屋代慎一郎君

●学生の身では、ゴルフ場で練習するといっても経済的になかなか難しいところ。部員は三十人。入部してからゴルフを始めたいという人がほとんどです。北海道BブロックからAブロックへの昇格が今の目標。もったの課題は、「精神力をいかに鍛えるか」だと主将の屋代慎一郎君は語っています。「ゴルフはメンタルなスポーツだといわれています。ピンチになっても諦めない強い精神力を養っておくことは、これから社会に出る僕たちにとって意味のあること。ゴルフは社会人になってからも楽しむ機会が多いスポーツ、だからみんな学生時代のうちにできるだけ腕を磨いておこうと思っているよ。」



思考する。発言する。行動する。函館大学。



体育クラブの主要成績

- 【ハンドボール部】
 - 第39会全日本学生ハンドボール選手権大会出場 平成8年11月（熊本市）
 - 第24回北海道学生春期リーグ戦105連勝 平成9年5月（札幌市）
 - 5戦全勝 1部リーグ優勝
 - 最優秀選手 4年 石川浩之
 - 優秀選手 4年 片岡達也
 - 3年 奥野 誠
 - 3年 進藤祐一
 - 3年 進藤祐一
 - 得点王 3年 進藤祐一
 - フェスティバルカップ97 熊本全日本選抜ハンドボール大会出場 平成9年5月（熊本市）
- 【軟式庭球部】
 - 第38回全道インドア選手権大会 平成8年11月（江別市）
 - （個人）1年 阿部清彦 2年 金森 淳
 - 3年 三本木崇 3年 矢作竜一
 - ベスト8
- 【バレーボール部】
 - 第30回大樽杯北海道大学男女バレーボールリーグ春季大会 平成9年5月（札幌市）
 - 四部リーグ 3勝1敗 準優勝
- 【スキー部】
 - 富山県スキー技術選手権大会 平成9年1月（富山県） 3年 米丘友明 1位
- 第31回北海道学生選抜ソフトテニスインドア選手権 平成8年12月（江別市）
- 2年 金森 淳 3年 矢作竜一 3位
- 春季全道学生ソフトテニス大会（団体）1部 準優勝
- （個人）3年 澤田圭佑 4年 三本木崇
- 2位 2年 沼澤 徹 3年 鶴岡直忠
- 3位 2年 吉澤和彦 1年 九根木 誠
- 【羽根球部】
 - 1997年度北海道学生バトミントン春季リーグ大会 平成9年5月（江別市）
 - （団体）1部リーグ 4戦全勝 優勝
- 【柔道部】
 - 第16回北海道学生柔道体重別選手権大会 平成9年5月25日（札幌市）
 - （個人）65kg以下級 2年 佐藤康博 3位
- 北海道学生選手権大会（総合成績）3年 米丘友明 5位
- 【剣道部】
 - 北海道学生剣道選手権大会 上位独占 平成9年5月25日（札幌市）
 - （個人）4年 高橋政則 優勝
 - 1年 木村真之 準優勝
 - 1年 立花知之 第3位

軟式文芸同好会

柔軟姿勢で表現活動を楽しんでいます



板東正晃君・田辺篤洋君・木田久士君

●小説、詩、論文、写真、その他何でもOK。ジャンルにとらわれず、それぞれ表現活動に取り組みたいというのがモットーです。会員は八人。作品集がすでに大学書籍部などで販売されています。ちなみに皆さんがどんな作品を発表しているのかをお聞きしました。「中世ヨーロッパを舞台にした小説を書きました。騎士道精神のもとに生きた人たちの人間像を描きかいた」（板東正晃君）。「いじめにかんする論文をまとめた。教師に何が望まれているのかを考察しました」（田辺篤洋君）。「写真に取り組んでいるので、気に入った作品に自分で書いた文章を合わせて発表しました」（木田久士君）。顧問は河村学長が、この会から将来の芥川賞、直木賞作家が出ないものかと期待されているようなので、ちょっとプレッシャーです（笑）と田辺君。「もっと仲間を増やしたい」という面々。新入生の入会にも期待しているようです。



「巷談辞典」
◆著者 新谷典彦

世に「辞典」は数多くありますが、さらに一冊追加したい本があります。井上ひさし著の「巷談辞典」がそれです。

もともと、辞典は引くものであつて読むものではないという偏見をお持ちの方には、これは読む辞典であることをお断りしておかなければなりません。辞典も読むものとして編集される傾向が見られる最近ですが、これはその先駆ではないかしらん。

漢字四文字の成句で、社会風刺あり、引いて転じて言葉遊びあり、駄洒落（言葉遊戯）ありと多面的思考からおもしろおかしく読める辞典ふうのエッセーであります。この作者ならではの奇想あふれるものの見方、考え方、表現力が読者を楽しませてくれます。万事に物知り、言葉知りの博学ぶりが縦横無尽に展開されていて感動してしまいます。

さらには、各項目ごとに入っている山藤章二氏のイラストにもスパイスが効いていて絶妙です。抱腹絶倒いたします。

臨機応変、当意即妙、才気煥発、読んでタメになる稀有無類、粒々辛苦の本でありますと背表紙のうたい文句にもある通りでありますし、さらには気楽気軽に読めて、かつまた役に立つおもしろい本であります。寢床にそつと忍ばせてみてはいかがでしょう。



「巷談辞典」
井上ひさし著（文藝春秋社）



「宇宙と星 宇宙空間への旅」
◆著者 片山郁夫

決して「本好き」ではない私にも、印象に残っている本は何冊かあります。高校時代に読んだ標記の二冊もそのひとつです。当時は能力さえあればその方面の勉強をしてみたいと思つた位興味深く読みました。今でもある種の懐かしさから、専門的な部分はとばしつつですが読み返すことがあります。

現在我々が眼にする「星（恒星）」の光が地球に到達するのに要する時間からはその距離がイメージできないこと、あるいは「宇宙」には「星の数」が約一千億という銀河系のようないくつもの大集団が幾十億、幾百億もあるといったことを読んだ時の言い表わしようのない不思議な気持ちは今でも新鮮によみがえります。まさにそれまでの自己があつたという間に量的にも質的にも相対化されてしまったような気がしたもの。と同時に、実際の物事を考える際に尺度、時間、位置関係等を替えてみるこの可能性という重要性を教つたように思います。

ここまで書いて、学生時代に友人たちと積丹の海で見た星空を思い出しました。本堂に「降ってくるような」満天の星をぜひ子らにも見せてやりたいものです。



「宇宙と星 宇宙空間への旅」
畑中武夫著（岩波書店）



「人材は不良（はみだし）社員からさがせ」
◆著者 津金孝行

企業は、ほかの企業との競争に勝ち、生き残らなくてはなりません。そのため、他社を差別化できる新商品の開発や全く新しい経営方法の開発などの画期的プロジェクトを成功させる必要があります。画期的プロジェクトの遂行に当たっては、プロジェクトチームを構成する人間の能力が成功の鍵を握っています。

この本では、画期的プロジェクトを成功させるための人材は、「不良社員」からさがせと言っています。我々は通常重要なプロジェクトを成功させようと思つたら、不良社員を使つたりはしないと思つた。しかし、「不良社員」ではない社員、つまり「良い子」の社員では、画期的プロジェクトを成功させることができないと述べられています。

「良い子の社員」は、上司や会社員に忠実で無難に仕事をこなしますが、つねに自分を安全な場所に置くため、新しいことに挑戦してそれを成功させるだけの力強さを持っていないのです。

企業間の競争が厳しい今日、企業を牽引する画期的プロジェクトの成功が必要です。この本は、そのための人材発掘方法に一石を投ずる一冊です。



「人材は不良（はみだし）社員からさがせ」
天外同朗著（ブルーバック出版）



「トラちゃん」
◆著者 上田香織

本書は、作者の家に来た数々のペットのお話である。何でも良く食べ、緑日の金魚から鯉に変身してしまった金魚のよしこちゃん。しゃべることとチャーハン焼豚が大好きなインコのピーコちゃん。家族の留守中泥棒に入られて立場がなくなった少し悲しい隣家の犬のビーター君。とても賢い猫のトラちゃんの子育てのお話。他にハツカネズミや十姉妹などのお話があるが、一番のお話が入りには「インコのピーコちゃん」である。

以前が家にも「ビビ」という名のインコがいた。彼は私たちが口にするものは何でも欲しがり、ビールを飲んで酔ってグチュグチュとよくしゃべっていた。そこまではピーコちゃんに似ていたが、欲張りだった彼はある日ご飯つづをのどに詰まらせ、あつけない空の彼方へと飛んでいってしまったのである。彼らしい最期であった。

作者は彼らを「非常に感情豊かで、ペットなんて生やさしいものではなく動物の格好をした人間であつた」と表現している。とにかく賢くユニークな動物たちのオンパレードである。本当にこんな動物がいるのかな？ いたら楽しいだろうなと思いつつ、わが家の駄犬ブチ君をなぜか見つめてしまふのでした。



「トラちゃん」
群ようこ著（集英社文庫）

野又学園プロフィール

函館大学付属 柏稜高等学校



●創立四十周年を機に男女共学に

一九五七年（昭和三十二年）、函館有斗高校女子商業部として開校以来、道南地域における女子教育に大きな役割を果たしてきた旧函館大学付属女子高校は、創立四十周年に当たる今年、男女共学校の函館大学付属柏稜高校として新しく生まれ変わりました。

「男子が入学できる私立高校を、という地域ニーズの高まりや、中学生の共学志向を受け、男女共学化に踏み切りました。異なる特質をもった男子と女子が刺激し合い、高め合っていくのが共学の良さ。そうした相乗効果を生かした教育に力を尽くし、文武両面に秀でた人材を育成していきたい」と本多栄司校長。記念すべき初年度に入学した生徒数は、男子が当初の予想を大きく上回る一五三人、女子が一六九人でした。

●普通科に特別進学コースを新設

二度目の開校ともいえる、新しい一歩を踏み出すに当たり、同校では教育環境の様々な面で拡充を図りました。男子受け入れのために更衣室などの専用施設を整備。さらに第二体育館や、情報処理演習室、調理実習室、音楽室、進路指導室なども新築中で、年内には完成する予定です。また、教師陣にも新しい風を呼び込もうと、一般公募で教員を増員しました。共学校での指導経験のある若手教員六人のほか、大学院修了者、企業での勤務経験者、幅広い人材を迎え入れました。「私をはじめ、旧女子高から引き続いての教員も、新設校に再就職したのだというフレキシブルな気持ちで日々の教育に当たっています」。

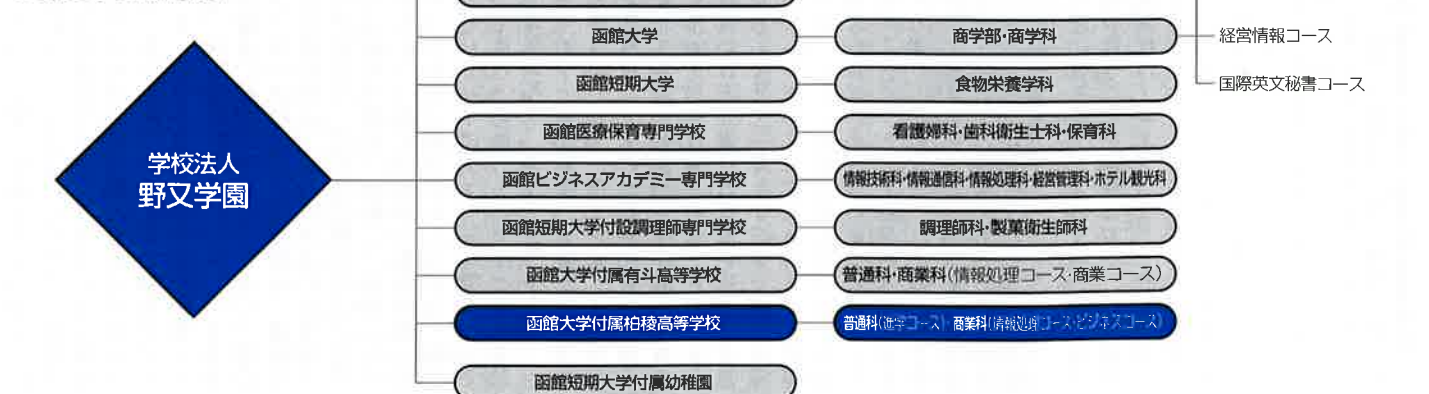


クラス編成も大きく変わりました。旧女子高時代は一学年商業科四クラス、普通科二クラスという編成でしたが、近年の進学志向を受け、柏稜高では普通科四クラス、商業科二クラスとしました。さらに普通科では一般コースのほかに、国公立大学および難関私立大学をめざす生徒を対象にした「特別進学コース」を設置しました。このコースでは七時間授業というカリキュラムのもと、徹底した受験指導を行います。一般・特別どちらのコースにおいても、有名予備校のサテライト講座（通信衛星を利用して授業）や、年間を通しての放課後補習など、学力アップの支援体制を整えています。商業の実務能力に秀でた人材の育成をめざす商業科には、情報処理とビジネスの



校長 本多栄司
函館市柏木町1番34号
TEL (0138) 51-1481

●野又学園組織図



同窓会から

〈札幌支部報告〉 同窓生の輪をもっと広げていきたい

若い同窓生の総会・懇親会への参加に期待



支部長 西谷憲一（第2回卒業）

毎年七月に開催している支部総会と懇親会（市内すみれホテル）には、函館本部から高橋会長、大学から先生がたが忙しなか来札し参加して下さり、感謝致しております。三十人から四十人程度の参加があり、盛況ではあるのですが、札幌支部管轄の同窓生名簿には六百人以上もの名が連なり、その全員に案内状を送付していることを考えると、この参加人数は正直に言ってもちよっと寂しい気が致します。とくに若い同窓生の姿が少なく、参加を呼び掛けたいですね。不思議なもので、同じ大学を卒業したというだけで年代を越えて親近感が湧き、うちとけて話せるものです。これから人脈をつくっていかねばならない若い人にとって、同窓生との交流は、ビジネスの上でもメリットがあると思います。ぜひこの場を活用してもらいたいものです。

深めたい、大学との一体感

幹事会では支部内の同窓生の輪を広げる



支部幹事 阿部誠一（第2回卒業）

会を年二回に増やしたいと考えています。ウィークデイよりも集まりやすい土曜日に、野外でバーベキューパーティーというラフなスタイルで行ってはどう案も出ています。

また、大学の先生がたにお願いして、札幌で社会人講座的な会を開けないものかと考えています。理事長先生や学長先生を囲む会といったものも、年に一度程度開けたらと希望しています。社会で頑張っている今だからこそ勉強したいこと、先生がたからお聞きしたいことがたくさんある、という同窓生も多いのではないかと思います。



こうしたブランの実現を通して、大学との一体感を強め、それを核に同窓生の交流をさらに広げていきたいと考えています。

協学会だより

人生「ハイ！」に生きる

◆協学会幹事

三菱運輸株式会社代表取締役
熊谷直幸（東京都）



私は現在五十歳。十五歳のときに親元を離れ岩手県片田舎から上京。右も左も分からないとは自分のことであつた。色々ジャグザグの人生を歩み、二十七歳、長男が生まれた年に独立。現在は運送業、民間車検場、飲食業（寿し、十割そば）を営んでいる。社員総数数百人くらい、企業の長であるが我が人生振り返ってみてもまだまだ修行の身である。そんな私が本誌への寄稿の話しを頂き投稿させて頂く事となった。（一寸過激かもしれない。読んでるうちに腹が立つかもしれない。その時は人選ミスと言うことで悪しからず）。何でも「ハイ！」と受け止めること。人生はこれである。相手が、上司が白と言ったら自分が絶対黒だと思つていても「ハイ白です」と受けるのだ。泥棒をしろとか人を殺せとか他人を騙せなどと言われる意外は、「ハイ！」である。返事もキリリと短く声高く胸を張り、断じて「ハイ！」である。お前の考えを言ってみろなどと言われるばしかり話すが、それ以外ほとんどのハイしか言うべきではない。テレビでも何処でも聞く話など、違いますよ、そんなことないですよ。目の色を変え目を三角にして言い訳がましく、そのくせ影では悪口と愚痴をタラタラ。仕事が終われば上司や先輩の悪口を酒場で遅くまで。次の日は当然職場に出遅れる。これで人生向上するか？愚痴や悪口を言つてるときの己の顔を鏡で見てみる。女だつて惚れるわけがない。そんな根性では、どんな大学を出たつてやがて窓際になり人間のゴミとなる。家庭に帰っても妻や子供に馬鹿にされ、どこに男の明日がある。こんな男にだけはなるなよ、

と書きたい。人間、成長と向上の道はとにかく「ハイ！」である。「ハイ！」は端で見ていても気持ちがいい。そういう人間は引き立てられる。白を黒と言われてもハイである。もともと、上司にお世辞のハイではないぞ。自分の成長・修行のためのハイである。天は見ている。「ハイ！」と生きる男の姿を。絶対に愚痴はいけない。悪口もダメ。言つた分だけ不幸を呼ぶ。言わない分だけ運を呼ぶ。自分がボスになるまではハイで生きる。その道の長になったとき、そこでは自分で考え、決断し、実行しなければならぬ。今までは愚痴や言い訳が多かつたなあと思ひ返るようなら、騙されたつもりでハイに生きるのだ。必ず道は開ける。人生、自分の前に立ちちはだかる山に越えられない山はないそうだ。楽しんで麓を回つて行こうとしても目的地に着けないのが人間の山だそう。ハイの人生で希望を持って越えることだ。希望を見捨てるのはあなたの方で、希望の方からあなたを見捨てるようなことはないだろう。（人生相談より）。

石の上にも三年。さあハイの人生に徹するか俺の言うことを蹴飛ばすか、どの道行くも如何様か？今までのことで分からない事や文句があつたら東京迄来い。まだ言いたいこと、人生成功の三原則など山ほどあるが、与えられたスペースではこれまでに。

※心は高く身は低く現在に満足不足を言わぬ。露進は頭上げずば、伸びていく。人生にも刺激、料理には香辛料、無くては物足りなく整わず。そんな想いで学生サンに向けて書かせて貰いました。過激、毒舌お許しのほど。失礼いたしました。

投稿コーナー百葉箱

応援、ありがとうございました

◆函館大学付属有斗高校硬式野球部部長 松田輝明



この春、九年ぶりに選抜高校野球大会に出場、全力を尽くして戦つてまいりました。創部五十周年の節目に当たる今年、甲子園出場を果たし、一勝することができ、野球部関係者、選手一同、喜んでおります。甲子園までの道程は平坦なものではありませんでした。平成二年の夏以来、出場の際符を手にしていなかったのが、野球部一同、伝統校としてのプレッシャーを背に感じながら、「今年こそは」の意欲を燃やし続けてきました。しかし、今年のチームは結成後すぐの試合で、市内の公立高校を相手に、まさかの三連敗。「打てない、守れない」という苦しい一時期がありました。上野監督から「有斗史上もっとも弱いチーム」と酷評され、発奮したナインでしたが、その矢先の相次ぐ故障。秋の函館支部選直前には、上野監督の御尊父逝去という悲しい出来事がありました。告別式の日には支部選初日で、監督はお父様の遺言にしたがい、悲しみをおさえて試合に出場されました。選手たちは監督のお父様のお気持ちに応えるためにも、頑張りました。全道大会も苦しい試合の連続でしたが、ピンチを乗り越えることに選手たちは成長していき、優勝することができました。

今年のチームに突出した選手はいませんが、メンバーがひとつになった時のパワーと粘りには目を見張るものがあります。選抜高校野球大会一回戦、郡山高校（奈良県）戦は、まさにそうした持ち味を十分に出した試合でした。粘りに粘り、コーチャーを含めメンバー全員で勝ちとった逆転サヨナラ勝ちでした。二回戦の春日部共栄高校（埼玉県）戦でも敗れたものの、優勝候補を相手に持てる力を出し切りしました。「弱い」と言われ、故障に泣いた今年のチームが、甲子園という大舞台で強豪を相手に、実力を発揮し、しかも一勝を勝ちとつた。その一部始終を目にしていた私は、まさに奇跡を見ているような感じが致しました。有斗高校野球部を見守り応援して下さったすべての方々の思いが見えない力となって、選手や監督の驚異的な粘りと頑張りへと支えてくれたのだと思います。

甲子園滞在中は函館大学や野又学園関係者の皆様の激励のFAX、差し入れなどのあたたかい応援によって、どれだけ勇気づけられたかわかりません。冬場の練習場にと、倉庫を探して下さった同窓会の柏葉会長、オーションスタジアムを貸して下さいました。函館市役所のご厚意にも深く感謝しております。この場を借りて、皆様方にあたたためて心から御礼申し上げます。



明日を楽しみに！

◆愛知県 伊豆原久代（四年・伊豆原 健）

テレビのコーナーで、猫がゴロゴロしているのを見て「猫はいいなあ」とうらやましているのがあります。人間なんてあくせく働いて、時間に追われ、金があるの言う。猫は仕事もせずに寝たいときに寝て、食べたいときに食べる。ストレスなしとはいいいな、と私も以前は思つたこともありましたが、子供たちが成人し、自分の時間も少しづつ持てるようになってくると、今まで目に映つても見向きもしなかつた道ばたの雑草の花のかわいらしさを見つたり、播いた種子から双葉が出て本葉のぞいてくるのも待ったり、木蓮の花に集まつてくる鳥たちを見る。今まで全然気付かなかつたものが見えてくる。新しい発見、猫には解つてもらえないことがたくさんあります。

でも、ここまでくるとはいろいろなことがありました。私が小学校五年生の時、父が、トマトを切りに行くから手伝つてくれというので畑へついでにいった行つたときの事、真夏でとても暑くやる気がせずつたらだらしている父は、「そんな面倒臭そうにやるならやつてくれなくていい！」とすごい剣幕で怒鳴りました。いつもはやさしくひょうきんな父のこわい顔。この時のことは私の胸の中に今でも焼き付いています。以来、「仕事をやる時は、やる気になって一生懸命する」と心に誓いました。また、高校を卒業して信用金庫に勤め始めたときのことです。入庫してすぐに為替係に配属になり、当時のことですから電話を受けて為替伝票

を起すのですが、字を書くのが遅く、「遅いことなら猫でもやる」と言われ、悔し涙を流したことも忘れられない思い出です。結婚してから、今は亡き義父とスイカの売り、焼き肉店勤め、兄の牧場の手伝いでシヨベルカーやフォークリフトに乗って牛に飼料をやつたりと、いろんな仕事をやってきました。どの仕事も初めは不安ですが、いろんな人達に教えられ、「人がやれることなら私にもできる」と自分に言い聞かせてやつてきました。幸か不幸か接客から肉体労働までしました。どれもそれぞれの魅力があります。お客様相手の時は気を遣いますが喜んでいただいたときには、また次回頑張るぞと明日につなげていきます。牧場では気は楽でしたが体力が必要。真夏の草刈りでは口の中が苦くなるほど汗をかき、体重を一キログラムほど減らすのも簡単なほどでした。でのこの経験から、いま猛暑の中で作業しても、あの時に比べてまだまだ楽だな、と思うことができます。長々と書いてきましたが、これから就職する皆さんの頭の隅に置いて欲しい言葉があります。それは、「職業に貴賤なし」。騒音がうるさい仕事、臭い仕事、体力を使う、頭を使う、危険を伴う等々、それぞれの職種にはそれぞれの意義や環境があります。どれが立派でどれは卑しいなどとは絶対に言えるものではありません。牛を育てる人がいるから肉が食べられる。車を造る人がいるから便利に生活できる。それぞれの立場で助け合っています。一生懸命にやっていたらまた新しいものが見えてくる。私もまた、明日を楽しみに生き生きと暮らしたいものです。

さあ、今夜もビールがうまい！

●遠方より原稿をお寄せいただき、まことにありがとうございます。●第六号も、ふるって投稿ください。●尚、掲載作品については、薄謝を呈呈させていただきます。